

黒石市教育委員会告示第1号

黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条第1項の規定に基づき、平成27年度黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書を作成したので、別紙のとおり告示する。

平成28年1月26日

黒石市教育委員会教育長 阿保淳士

平成27年度

黒石市教育委員会の事務の点検  
及び評価に関する報告書

平成28年1月  
黒石市教育委員会

## ま え が き

黒石市教育委員会では、郷土に誇りを持ち、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指し、心豊かでたくましく文化やスポーツに親しむ市民の育成と、個性豊かで活みなぎる地域社会の建設を目指す教育の推進に努めております。

そして、今後の効果的な教育行政の推進並びに市民への説明責任を果たすことを目的に、毎年度定めている「黒石市教育施策の方針」に基づき、事務が適切に実施されているか点検し、評価を行い、更に外部の学識経験者からの評価を受け、その結果を報告書としてまとめております。

さらに今年度からは、効果的な教育行政の推進を図るため、今年度の事務の評価が来年度の施策策定に反映できるよう、昨年度の事務の点検のほか、今年度の施策による事業計画までを点検評価項目として捉え、今後の課題を探りました。

市民の皆様には、この報告書を御覧いただき、本市の教育と市教育委員会の取組みについて、少しでも理解を深めていただければ幸いです。

今後も、教育施策の推進に努めて参りますので、市民の皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この報告書は、冊子によるほか、黒石市のホームページにより公表いたします。

平成28年1月

黒石市教育委員会

### ◇ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 目 次

## 第1章 点検及び評価の概要

### 1 点検・評価にあたって

- (1) 点検・評価の方法 ..... 1
- (2) 点検・評価の対象 ..... 2

## 第2章 教育委員会活動（平成26年度）

### 1 組織体制

- (1) 教育委員 ..... 4
- (2) 教育委員会組織 ..... 4
- (3) 教育委員会事務分掌 ..... 4

### 2 委員会の活動概要

- (1) 教育委員会会議 ..... 8
- (2) その他の教育委員の活動 ..... 12

## 第3章 点検及び評価結果

### 平成26年度・平成27年度黒石市教育委員会重点施策

#### 1 夢や志を支え、知・徳・体が調和する学校教育の推進

- (1) 確かな学力の育成（H26・H27変更なし） ..... 15
- (2) 教員の資質向上（H26・H27変更なし） ..... 18
- (3) 教育相談の充実（H26・H27変更なし） ..... 20
- (4) 不登校児童生徒の解消（H26・H27変更なし） ..... 22
- (5) 適切な就学指導の推進（H26） ..... 23
- (6) 学校適正配置の推進（H26・H27変更なし） ..... 25
- (7) 学校完全給食の実現 ..... 27
- (8) 学校施設・設備の整備（H26・H27変更なし） ..... 28
- (9) 学校教育環境の整備（H26・H27変更なし） ..... 30
- (10) 就学の援助（H26・H27変更なし） ..... 34

#### 2 家庭や地域での学びを生かし、つながりを大切にする社会教育の推進

- (1) 青少年への教育活動の充実（H26・H27変更なし） ..... 35
- (2) 成人への教育活動の充実（H26・H27変更なし） ..... 40
- (3) 家庭教育の向上（H26） ..... 42
- (4) 地域教育力の向上（H26・H27変更なし） ..... 43
- (5) 読書活動の推進（H26・H27変更なし） ..... 47
- (6) 社会教育施設の整備（H26・H27変更なし） ..... 49

#### 3 歴史と文化を尊重し、感性と創造力を高める芸術文化活動の推進

- (1) 文化財の保存と活用（H26・H27変更なし） ..... 52
- (2) 地域の歴史・文化の継承（H26・H27変更なし） ..... 54
- (3) 芸術文化活動の推進（H26・H27変更なし） ..... 55
- (4) 活動環境の整備（H26・H27変更なし） ..... 57

#### 4 心身の健康を保ち、活力と感動を生み出すスポーツ活動の推進

- (1) スポーツ活動の推進（H26） ..... 57
- (2) スポーツ施設の管理運営等（H27=H26-2-(6)から分離） ..... 61

## 第4章 事務点検評価委員による意見（総括） ..... 62



# 平成27年度黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書

## 第1章 点検及び評価の概要

### 1 点検・評価にあたって

#### (1) 点検・評価の方法

点検評価した内容を次年度の重点施策・事業計画の策定に活かすため、PDCAサイクルを基本としました。

##### ① 計画 (Plan)

黒石市教育施策の方針を基本として毎年度3月に重点施策を策定し、学校教育・社会教育・スポーツ活動・芸術文化活動の各施策を推進するために、具体的な取組み(事業)を計画しています。

##### ② 実績 (Do)

計画に沿って事業が行われているか点検するため、平成26年度の事業実績をまとめました。

##### ③ 点検・評価 (Check)

###### ア 自己点検・評価

各課が行うべき施策に沿った事業計画が行われ、適正に実施されているか振り返り、成果や反省点をまとめました。

###### イ 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定による学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価(成果、課題等)の結果について、選任した学識経験者3名から意見をいただきました。

※ 黒石市教育委員会事務点検評価委員会

委員長 工藤能継氏

委員 清水弘美氏

委員 石沢由彦氏

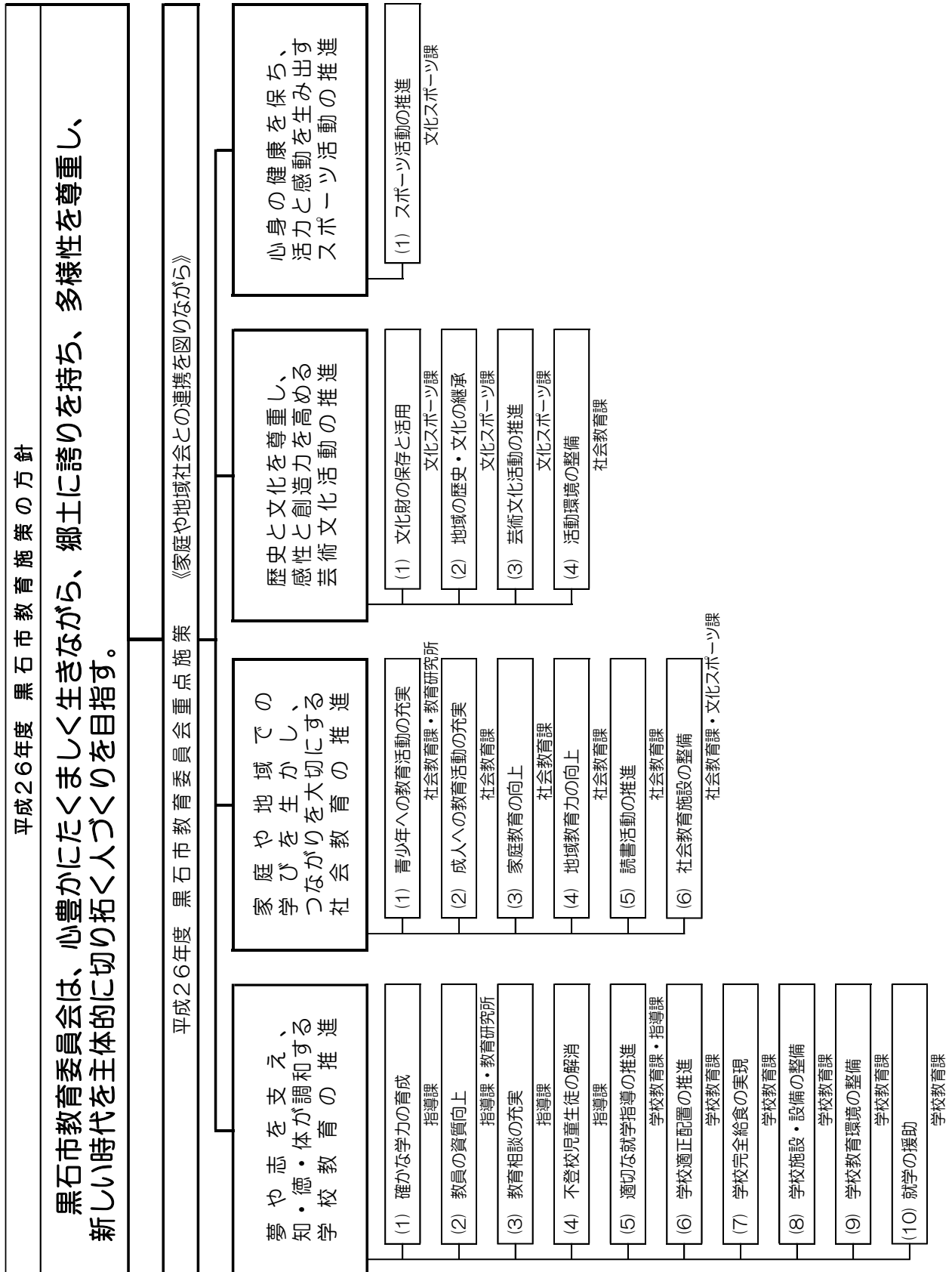
##### ④ 今後の方向 (Action)

平成26年度の事業実績による自己点検評価を踏まえ、平成27年度の施策及び事業計画と合わせ、外部評価を受けています。

これにより、平成28年度の施策の方向性及び事業計画を検討していきます。

(2) 点検・評価の対象

自己点検・評価については、平成26年度の教育委員会の重点施策を基に行いました。  
外部評価は、このほか、平成27年度の重点施策を併せて行いました。



平成27年度 黒石市教育施策の方針

黒石市教育委員会は、心豊かにたくましく生きながら、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指す。

平成27年度 黒石市教育委員会重点施策 《家庭や地域社会との連携を図りながら》

夢や志を支え、知・徳・体が調和する学校教育の推進

- (1) 確かな学力の育成  
指導課
- (2) 教員の資質向上  
指導課・教育研究所
- (3) 教育相談の充実  
指導課
- (4) 不登校児童生徒の解消  
指導課
- (5) 特別支援教育の推進  
学校教育課・指導課
- (6) 学校適正配置の推進  
学校教育課
- (7) 学校完全給食の実現  
学校教育課
- (8) 学校施設・設備の整備  
学校教育課
- (9) 学校教育環境の整備  
学校教育課
- (10) 就学の援助  
学校教育課

家庭や地域での学びを大切にする社会教育の推進

- (1) 青少年への教育活動の充実  
社会教育課・教育研究所
- (2) 成人への教育活動の充実  
社会教育課
- (3) 家庭教育の支援  
社会教育課
- (4) 地域教育力の向上  
社会教育課
- (5) 読書活動の推進  
社会教育課
- (6) 社会教育施設の整備  
社会教育課

歴史と文化を尊重し、感性と創造力を高める芸術文化活動の推進

- (1) 文化財の保存と活用  
文化スポーツ課
- (2) 地域の歴史・文化の継承  
文化スポーツ課
- (3) 芸術文化活動の推進  
文化スポーツ課
- (4) 活動環境の整備  
社会教育課

心身の健康を保ち、活力と感動を生み出すスポーツ活動の推進

- (1) 一市民ースポーツの推進  
文化スポーツ課
- (2) スポーツ施設の管理運営等  
文化スポーツ課



## 第2章 教育委員会活動（平成26年度）

### 1 組織体制

#### (1) 教育委員

職名	氏名	任期	備考
委員長	村上良子	H22. 3. 18－H26. 3. 17（1期）	
		H26. 3. 18－H30. 3. 17（2期）	
委員	津軽承公	H24. 11. 21－H28. 11. 20（2期）	委員長職務代行者
委員	中村康	H22. 12. 24－H26. 12. 23（1期）	
委員	千葉小夜子	H24. 11. 21－H28. 11. 20（1期）	
委員	駒井順一	H26. 12. 24－H30. 12. 23（1期）	
教育長	阿保淳士	H24. 11. 21－H28. 11. 20（1期）	

#### (2) 教育委員会組織

事務局	学校教育課	総務係、学務係
	指導課	（黒石市教育相談室）（学習適応指導教室）
	社会教育課	社会教育係、地域支援係
	文化スポーツ課	文化スポーツ係、文化財係
教育機関	幼稚園（1校）	黒石幼稚園
	小学校（10校）	黒石小学校、六郷小学校、上十川小学校、中郷小学校、北陽小学校、東英小学校、牡丹平小学校、浅瀬石小学校、追子野木小学校、黒石東小学校、
	中学校（4校）	黒石中学校、六郷中学校、中郷中学校、東英中学校
	教育研究所	
	公民館（10館）	黒石公民館（休館）、中郷公民館、六郷公民館、山形公民館、浅瀬石公民館、東公民館、中部公民館、牡丹平公民館、追子野木公民館、上十川公民館
	ほるぷ子ども館	
委任機関	市民文化会館（休館）、スポカルイン黒石、西部地区センター、青少年相談センター、勤労青少年ホーム、中央スポーツ館、武道場、農村環境改善センター	

#### (3) 教育委員会事務分掌

学校教育課

総務係

- (1) 教育委員会の会議に関すること。
- (2) 教育委員の学校訪問に関すること。
- (3) 教育委員の庶務に関すること。

- (4) 規則及び規程の制定、改廃及び公布に関する事。
- (5) 公印の制定及び管理に関する事。
- (6) 職員（県費負担教職員を除く。）の任免その他の人事に関する事。
- (7) 教育行政についての総合的企画及び実施の調整に関する事。
- (8) 予算及び決算の総括に関する事。
- (9) 文書の収受に関する事。
- (10) 市立学校図書館図書購入基金に関する事。
- (11) 教育委員会事務点検評価に関する事。
- (12) 市立学校に係る財産の管理に関する事。
- (13) 市立学校の施設の営繕及び保全に関する事。
- (14) 市立学校の管理備品の整備に関する事。
- (15) 市立学校の施設の建築等に関する事。
- (16) 市立小学校及び中学校施設等の使用許可に関する事。
- (17) 市立学校の公有財産の取得及び用途廃止等に関する事。
- (18) 事務局内各課及び学校その他の教育機関との連絡調整に関する事。
- (19) 他の課に属しない事務に関する事。
- (20) 課の庶務に関する事。

#### 学務係

- (1) 市立学校の設置及び廃止に関する事。
- (2) 区域外児童及び生徒の教育事務委託に関する事。
- (3) 通学区域に関する事。
- (4) 学級編制に関する事。
- (5) 児童、生徒及び幼児の就学並びに入学及び転学に関する事。
- (6) 教科用図書の給付及び給与に関する事。
- (7) 教材及び教具の整備等に関する事。
- (8) 就学援助及び特別支援教育就学奨励に関する事。
- (9) 県費負担教職員（以下「教職員」という。）の服務その他の人事に関する事。
- (10) 学校保健活動に関する事。
- (11) 学校給食に関する事。
- (12) 独立行政法人日本スポーツ振興センターに関する事。
- (13) 市立幼稚園の就園に関する事。
- (14) 私立幼稚園の就園奨励に関する事。
- (15) 就学指導委員会に関する事。
- (16) 市立小学校及び中学校の適正配置に関する事。
- (17) その他学務に関する事。

#### 指導課

- (1) 教育課程の編成、実施管理及び評価に関する事。
- (2) 学習指導、生徒指導及び進路指導等学校教育に係る指導に関する事。
- (3) 教職員の研修に関する事。

- (4) 研究発表会及び研究助成に関する事。
- (5) 教科用図書の採択に関する事。
- (6) 教科用図書及びその他の教材の取扱いに関する事。
- (7) 学校行事及び学校の休業に関する事。
- (8) 児童生徒の事故に関する事。
- (9) 教育研究団体の育成に関する事。
- (10) 幼稚園、小学校及び中学校の連携に関する事。
- (11) 幼稚園教育に係る専門的事項の指導に関する事。
- (12) 教育相談及び学習適応指導教室に関する事。
- (13) 外国語指導助手に係る事務及び活用に関する事。
- (14) 中学生海外派遣事業に関する事。

## 社会教育課

### 社会教育係

- (1) 社会教育行政中期計画の策定に関する事。
- (2) 社会教育に関する講座、講習会及び研修会に関する事。
- (3) 家庭教育の推進に関する事。
- (4) 学校教育・社会教育の連携推進に関する事。
- (5) 成人式及び実年式に関する事。
- (6) 生涯学習に関する事。
- (7) 社会教育委員及び社会教育指導員に関する事。
- (8) 少年団体育成指導委員に関する事。
- (9) 高校生ボランティア活動及び同表彰審査会に関する事。
- (10) 青少年の海外派遣に関する事。
- (11) その他社会教育に関する事。

### 地域支援係

- (1) コミュニティ活動の支援に関する事。
- (2) 社会教育施設の整備計画等に関する事。
- (3) 社会教育団体の支援及び助言並びに連絡調整に関する事。
- (4) 公民館に関する事。
- (5) 婦人会館に関する事。
- (6) 農村環境改善センターに関する事。
- (7) 北地区小体育館に関する事。
- (8) 西部地区センターに関する事。
- (9) 勤労青少年ホームに関する事。
- (10) スポカルイン黒石図書コーナーに関する事。
- (11) ほるぷ子ども館に関する事。
- (12) 市民文化会館に関する事。
- (13) 読書活動の推進に関する事。
- (14) 視聴覚教育に関する事。

- (15) 青少年相談センターに関する事。
- (16) 青少年の健全育成に関する事。
- (17) 課の庶務に関する事。

#### 文化スポーツ課

##### 文化スポーツ係

- (1) 文化及び芸術の振興並びに団体育成に関する事。
- (2) 文化賞等及び同受賞者審議会に関する事。
- (3) 幼稚園及び小・中学生団体鑑賞の企画実施に関する事。
- (4) 市史その他歴史に関する刊行物の編さんに必要な資料の収集、整理及び保管並びに調査に関する事。
- (5) 生涯スポーツの振興に関する事。
- (6) スポカルイン黒石に関する事。
- (7) 中央スポーツ館に関する事。
- (8) 市立武道場に関する事。
- (9) スポーツ行事の実施及び奨励に関する事。
- (10) スポーツ団体の育成指導及び連絡調整に関する事。
- (11) スポーツ賞等及び同受賞者審議会に関する事。
- (12) スポーツ推進委員に関する事。
- (13) 学校体育施設の開放に関する事。
- (14) その他文化、芸術及びスポーツに関する事。
- (15) 課の庶務に関する事。

##### 文化財係

- (1) 文化財の保護及び活用に関する事。
- (2) 文化財の調査及び報告に関する事。
- (3) 文化財の指定及び解除に関する事。
- (4) 文化財保護審議会に関する事。
- (5) 伝統芸能の保存及び育成に関する事。
- (6) 伝統的建造物群保存事業に関する事。
- (7) 歴史的景観保存審議会に関する事。
- (8) その他文化財に関する事。

## 2 委員会の活動概要

### (1) 教育委員会会議

月1回の定例会と必要に応じて臨時会を開催した。

開催日	会議	議案番号等	案 件 等	結果
平成26年 4月30日	第4回 定例会	議案第46号	黒石市特別支援教育支援員規則の一部改正について	可決
		議案第47号	黒石市「UPる」先生任用規則の一部改正について	可決
		議案第48号	教育財産の取得に係る市長への申出について	可決
		議案第49号	旧松の湯再生2期工事計画の策定について	可決
5月21日	第4回 臨時会	議案第50号	平成26年第1回黒石市議会臨時会に提出する議案に対する意見について	可決
5月27日	第5回 定例会	議案第51号	黒石市教育委員会事務点検評価委員会規則の一部改正について	可決
		議案第52号	黒石市立幼稚園管理規則の一部改正について	可決
		議案第53号	黒石市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について	可決
		議案第54号	黒石市就学援助事業実施要綱の一部改正について	可決
		議案第55号	黒石市就学指導委員会委員の委嘱について	可決
		議案第56号	黒石市教育委員会事務点検評価委員会委員の委嘱について	可決
		議案第57号	黒石市教育委員会事務点検評価委員会委員の委嘱について	可決
		議案第58号	黒石市教育委員会事務点検評価委員会委員の委嘱について	可決
		議案第59号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
		議案第60号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
6月25日	第6回 定例会	議案第61号	黒石市スポーツ活動の指針について	可決
		議案第62号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
		議案第63号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
		議案第64号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決

開催日	会 議	議案番号等	案 件 等	結果
7月25日	第7回 定例会	議案第65号	平成26年第2回黒石市議会定例会に提出する議案に対する意見について	可決
		議案第66号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
8月8日	第5回 臨時会	議案第67号	平成27年度使用小・中学校教科用図書採択について	可決
8月26日	第8回 定例会	議案第68号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
		議案第69号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
9月29日	第9回 定例会	議案第70号	黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針について	可決
		議案第71号	旧松の湯再生2期工事計画の一部変更について	可決
		議案第72号	平成26年第3回黒石市議会定例会に提出する議案に対する意見について	可決
		議案第73号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
		議案第74号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
10月30日	第10回 定例会	議案第75号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
11月25日	第11回 定例会	議案第76号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第77号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第78号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第79号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第80号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第81号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第82号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決

開催日	会 議	議案番号等	案 件 等	結果
		議案第83号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第84号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第85号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第86号	黒石市スポーツ賞等受賞者審議会委員の委嘱について	可決
		議案第87号	平成26年第4回黒石市議会定例会に提出する議案に対する意見について	可決
12月22日	第12回定例会	報告第1号	第1報告第1号 臨時代理した事務の報告について (処分第1号 黒石市立黒石幼稚園の廃止に関する方針の一部変更について)	報告
		議案第88号	黒石市教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書の作成について	可決
平成27年 1月26日	第1回定例会	議案第1号	平成27年度黒石市教育施策の方針について	可決
		議案第2号	平成27年度黒石市学校教育指導の方針と重点について	可決
		議案第3号	平成26年度黒石市文化奨励賞受賞者の決定について	可決
		議案第4号	平成26年度黒石市スポーツ賞等受賞者の決定について	可決
		議案第5号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
2月17日	第1回臨時会	議案第6号	平成26年度黒石市スポーツ賞受賞者の決定について	可決
		議案第7号	平成26年度黒石市高校生ボランティア活動賞受賞者の決定について	可決
		議案第8号	黒石市立小学校及び中学校の校長及び教頭の異動に係る内申について	可決
2月27日	第2回定例会	議案第9号	黒石市学習適応指導教室運営規則の一部改正について	可決
		議案第10号	黒石市教育委員会と国立大学法人弘前大学大学院医学研究科との連携に関する協定の締結について	可決
		議案第11号	黒石市教育委員会と国立大学法人弘前大学教育学部との連携に関する協定の締結について	可決

開催日	会 議	議案番号等	案 件 等	結果
		議案第12号	平成27年第1回黒石市議会定例会に提出する議案に対する意見について	可決
		議案第13号	教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員に係る懲戒処分等について	可決
3月17日	第2回臨時会	議案第14号	黒石市立小・中学校の通学区域に関する規則の一部改正について	可決
3月18日	第3回臨時会	議案第15号	平成27年度黒石市教育委員会の課長級以上の職員の任免について	可決
3月26日	第3回定例会	議案第16号	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について	可決
		議案第17号	平成27年度黒石市教育委員会重点施策について	可決
		議案第18号	黒石市立黒石幼稚園長の任命について	可決
		議案第19号	黒石市学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について	可決
		議案第20号	黒石市立六郷公民館長の任命について	可決
		議案第21号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第22号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第23号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第24号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第25号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第26号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第27号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第28号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
		議案第29号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決
議案第30号	黒石市家庭教育推進協議会委員の委嘱について	可決		
		議案第31号	黒石市立幼稚園管理規則の一部改正について	可決



## (2) その他の教育委員の活動

教育委員は、教育委員会会議以外に、学校等の教育関連施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会等に参加して委員としての幅広い識見を養い、本市の教育行政の向上に努めている。

年	月	活 動 内 容
平成26年	4月	南地方市町村教育委員会連絡協議会教育委員長・教育長会議 平成26年度南地方市町村教育委員会連絡協議会総会
	5月	平成26年度青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会 平成26年度市町村教育委員会委員研修会
	6月	平成26年黒石市議会第2回定例会
	9月	平成25年黒石市議会第3回定例会 実年式
	10月	市立学校訪問（幼稚園1校・小学校10校・中学校4校） 平成26年度黒石市教育委員会研究指定校学習指導研究発表会
	12月	平成26年黒石市議会第4回定例会
平成27年	1月	成人式
	2月	平成26年度黒石市文化・スポーツ賞等授与式
	3月	平成26年黒石市議会第1回定例会 市立学校卒業式

### 第3章 点検及び評価結果

#### ※ 点検評価表の解説

##### 表中欄の解説

###### 〔平成26年度施策欄〕

教育委員会が掲げる平成26年度の重点施策中各課が実行すべき施策を掲載

###### 〔予算・決算欄〕

予算は、平成26年度の最終補正後の額。予算のない事業については「―」で表記

前年度比(%) = (現計予算額 ÷ 前年度現計予算額 × 100) - 100で算出し、小数点第2位を四捨五入

決算は、平成26年度の決算額。予算のない事業については「―」で表記

執行率(%) = 決算額 ÷ 当該年度現計予算額 × 100で算出し、小数点第2位を四捨五入

執行率が次に該当する場合は、「 」内に示すとおり表記

- |                           |         |
|---------------------------|---------|
| (1) 該当数値がない場合             | 「―」     |
| (2) 数値が1,000%以上の増減となった場合  | 「激増・激減」 |
| (3) 新規事業の場合や予算措置が0円になった場合 | 「皆増・皆減」 |

###### 〔事業計画欄〕

平成26年度重点施策に基づき計画した事業を掲載

###### 〔事業実績欄〕

平成26年度事業計画に対しての実績を掲載

###### 〔点検・評価欄〕

平成26年度の事業実績から当該年度の施策の成果や反省点を掲載。評価値は、次の基準による。

A = 成果を認め、引続き継続していく必要がある。

B = 概ね成果を認めるが、手法の見直しを図る必要がある。

C = 成果があまり認められず、一部事業の見直しや手法について改善する余地がある。

D = 成果が認められず、事業廃止を含め、事業の見直し又は施策目標の見直しをする必要がある。

###### 〔今後の課題等欄〕

点検・評価から出された課題、改善策等を掲載

###### 〔平成27年度施策欄〕

教育委員会が掲げる平成27年度の重点施策中各課が実行すべき施策を掲載

###### 〔予算欄〕

予算は、平成27年度の6月補正後の額。予算のない事業については「―」で表記

前年度比(%) = (現計予算額 ÷ 前年度現計予算額 × 100) - 100で算出し、小数点第2位を四捨五入

###### 〔事業計画欄〕

平成27年度重点施策に基づき計画した事業を掲載

〔外部評価欄〕

次に掲げる事項に視点をおいて教育委員会事務点検評価委員会委員に評価していただいた。

- (1) 各課が行うべき施策が、実施した事業によりどの程度の成果や課題等があったかを適切に内部評価しているか。
- (2) 各課が実行すべき平成27年度の施策が平成27年度の重点施策項目に沿ったものになっているか。
- (3) 自己点検評価から出された問題点や改善策と平成27年度の施策や事業計画が乖離していないか。

また、評価値は、次の基準による。

A＝成果を認め、引続き継続していく必要性がある。

B＝概ね成果を認めるが、事業の見直しを図る必要性がある。

C＝成果があまり認められず、各課が実行すべき施策や事業の見直し、事業手法について改善する余地がある。

D＝成果が認められず、事業廃止を含め、施策の見直しをする必要性がある。

## 平成26年度・平成27年度黒石市教育委員会重点施策

### 1 夢や志を支え、知・徳・体が調和する学校教育の推進

#### (1) 確かな学力の育成（H26・H27変更なし）

基礎的な知識及び技能を習得、かつ、活用し、自ら考え判断し、表記することにより、様々な問題に積極的に対応しよりよく解決する力を養う。

平成26年度 施策ア	【継続】学校教育に係る教科指導の充実（指導課） 教科指導の現状について把握し、学習指導要領に即した年間指導計画の策定と指導内容の重点化を図った「わかる授業」の実践について指導・助言を行う。				
予算・決算	現計予算額	7,353,000円		決算額	6,427,720円
		前年度比	皆増		執行率
事業計画	① 計画訪問 5-7月 15回 市立幼稚園、全小・中学校を計画的に訪問し、教育活動のより一層の推進を図る。 ② 要請訪問 5-2月 校長の要請を受け訪問し、教育力の向上を図る。 ③ 学力向上支援訪問 2月 県学習状況調査の結果が低調な学校を訪問し、授業力向上を図る。 ④ 「UPる」先生派遣事業 5-2月 指導員を配置し、算数・数学の指導の充実を図る。				
事業実績	① 計画訪問 5-7月 15回 ② 要請訪問 5-2月 幼稚園1回 小学校17回 中学校4回 計22回 各教科担当指導主事が訪問 ③ 学力向上支援訪問 2月 小学校4回 中学校3回 ④ 「UPる」先生派遣事業 5-2月 小学校5名 中学校3名 計8名配置 各校とも徹底した個別指導やTT指導等の運用を行った。				
点検・評価	B	計画訪問や要請訪問での指導・助言が功を奏し、学校運営や校内研修の活性化につながった。とくに、UPる先生の活用に関しては、成果が認められたが、全校配置ができなかった。			
今後の課題等	学校の実態を踏まえ、一貫した指導事項(板書・振り返り)の徹底を図りたい。 また、UPる先生の活用に関しては、当該先生の全校配置を目指したい。				
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ				
予算	現計予算額	8,252,000円		前年度比	12.2%増

事業計画	平成26年度事業計画に同じ			
平成26年度 施策イ	【継続】外国語教育の充実（指導課） 外国語担当教員の補助的役割を担う外国語指導助手を派遣する。			
予算・決算	現計予算額	9,452,000円	決算額	8,999,484円
		前年度比 17.9%増		執行率 95.2%
事業計画	外国語指導助手の配置 2人 計画的に市立学校を巡回 訪問日数 幼稚園10日・小学校172日・中学校164日			
事業実績	外国語指導助手の配置 2人 計画的に市立学校に派遣 訪問日数 幼稚園10日・小学校173日・中学校173日 小学校：ゲームや歌などの活動を頻繁に取り入れ、児童が意欲的に授業に参加するよう配慮した。 中学校：担当教員と外国語指導助手が協力しながら言語モデルを示し、コミュニケーションを中心とした授業を行った。			
点検・評価	A	ALTと一緒に授業をすることで、児童生徒は、ネイティブな英語の音声に慣れ親しみながら、自然に英語やアメリカの文化について関心を高めることができた。また、授業前の打合せを密にすることで、児童生徒の実態を鑑み、学級担任が主体的に授業内容等を考えることができるようになってきた。さらには、授業後の児童生徒の自己評価や学級担任との打合せが次時への授業改善につながった。		
今後の課題等	小学校外国語活動における学級担任の指導力の向上を図るため、教材以外のゲームや歌の紹介等を研修講座の内容に加えるなど工夫を図りたい。			
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ			
予算	現計予算額	9,468,000円	前年度比	0.2%増
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			
平成26年度 施策ウ	【継続】キャリア教育の充実（指導課） キャリア教育に係わる情報交換を通し、各学校と教育委員会が関係機関、団体等との連携を密にする。			
予算・決算	現計予算額	— 円	決算額	— 円
		前年度比 — %		執行率 — %
事業計画	黒石市キャリア教育連絡協議会の開催 年1回 職場体験学習の情報交換・情報の共有化 参集範囲 市立小・中学校担当教員、市内高校進路指導担当者、商工会議所、公共職業安定所の関係者			
事業実績	黒石市キャリア教育連絡協議会 H27.2.12 中南地区のキャリア教育の現状と課題についての講話			

	講師：中南教育事務所主任指導主事 市内小・中学校のキャリア教育への取組状況に関する情報交換 進路状況や職場訪問・職場体験学習受入れ可能な事務所について情報提供 縦・横の連携を推進するために、各校は何をすべきかについての協議			
点検・評価	B	協議をとおして、各小中学校のキャリア教育への現状の取組について共通理解することができた。		
今後の課題等	小・中学校と高等学校における12年間を見通したキャリア教育について課題が見られた。			
平成27年度施策ウ	【継続】平成26年度施策ウに同じ			
予算	現計予算額	— 円	前年度比	— %
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

平成26年度施策エ	【継続】情報化に対応する教育の充実（指導課） 学校での情報教育の一層の推進と情報モラル教育の向上に必要な情報や教材を提供する。			
予算・決算	現計予算額	40,000円	決算額	20,000円
		前年度比 同額		執行率 50.0%
事業計画	コンピュータ研修講座の開催 年1回(3日) 情報教育の向上及び指導の充実 小・中学校教職員対象			
事業実績	コンピュータ研修講座 H26.7.25・28・29(コース選択制) 教職員13人参加 情報モラル教育、セキュリティ対策、教材製作や成績処理に有効なソフトの情報提供や相談に応じた。 講師 黒石中学校教諭2人・中郷中学校教諭1人・追子野木小学校教諭1人			
点検・評価	B	児童生徒が情報を主体的に活用し、情報化社会に対応する能力を身につけるために、ICTの有効活用や情報モラル教育の推進に関する研修は必要不可欠であり、各講座とも充実した研修内容であった。 また、ニーズに応じたコース選択を可能にしたことが参加者の負担感軽減につながった。		
今後の課題等	情報化教育は、より多くの教職員の資質向上が望まれるため、研修内容や時期、方法等に一考を要する。			
平成27年度施策エ	【継続】平成26年度施策エに同じ			
予算	現計予算額	20,000円	前年度比	50.0%減
事業計画	ICT活用研修講座の開催 年1回(2日・コース選択制) 情報教育の向上及び指導の充実 小・中学校教職員対象			

【外部評価 B】

各施策とも、これからの社会を生きていく児童生徒の力を向上させるためのものであり、様々な課題に対応を図りながら重点施策に沿った内容になっている。

教科指導の充実、外国語教育の充実の施策では、学校訪問での指導助言、UPる先生の派遣、ALTの配置等、児童生徒にわかりやすく、積極的に授業に参加できるような授業の実践への努力は評価したい。

しかし、教科が特定されるUPる先生の確保や「派遣する」ことが施策となっているALT派遣事業の何のために派遣するのかという目的の明示などが問題としてあげられる。

キャリア教育の充実では、12年間を見通したキャリア教育とあるが、小中高の連携をどのように図るのか具体的な体制構築が必要と思う。

情報化に対応する教育の充実では、コンピュータ研修講座についてコースを選択制にするなど参加しやすく配慮したことは良かったと思う。施策に掲げる「情報モラル教育」という趣旨と「PCの基本操作」という内容とが合致していないため、施策に沿った研修内容となるよう今一度検討するとともに、ICT活用や情報モラル教育に関する現状把握や少ない参加者で波及効果を上げるための伝達講習の取り組みについて、教育委員会として積極的な指導をすべきと考える。

一方において、予算措置によって事業が制約されているという課題も明らかになっている。良い事業が予算に反映されるためには、さまざまな工夫により関係者にアピールする努力も必要だと思われる。例えば、数値による達成度や教職員等のアンケートなどを目に見える「成果」として示す、定期的な意見交換や問題提起の機会による「実績評価」を公開するなどの取り組みを期待する。

(2) 教員の資質向上 (H26・H27変更なし)

教職に関する専門的事項についての研修を組織的、かつ、計画的に進め、必要とされる資質能力の向上を図る。

平成26年度 施策 ア	【継続】学習指導の研究と発表（指導課） 当面する学校教育課題の解決を図り、幼児・児童生徒の生きる力の育成に資する。			
予算・決算	現計予算額	450,000円	決算額	277,700円
		前年度比		同額
事業計画	① 学習指導研究校の指定 小学校2校・中学校1校 ② 公開授業の実施			
事業実績	① 学習指導研究校の指定 黒石東小学校、北陽小学校、黒石中学校 ② 公開授業の実施			
点検・評価	B	研究指定校の発表内容を参考に、各校における学習指導の改善につなげることができた。反面、学校現場にとって公开发表までの2年間はかなり		

	の負担になっている。教員の多忙化解消や子どもと教員のふれあいの時間の確保などの点を考慮して平成27年度は廃止するものである。。
平成27年度	廃止

平成26年度 施策イ	【継続】教員研修講座の実施（指導課） 教員の資質向上に必要な研修講座を開設する。					
予算・決算	現計予算額	618,000円		決算額	322,002円	
		前年度比	930.0%増		執行率	52.1%
事業計画	① 教務主任連絡協議会 年2回 ② 生徒指導連絡協議会 年1回 ③ 幼保小連携研究協議会 年1回 ④ 理科主任会議 年2回 ⑤ 初任教員研修講座 年1回 ⑥ 幼児児童教育実技研修講座 年1回 ⑦ 理科実技研修会 年3回 ⑧ 研修主任研修講座 年1回 ⑨ 夏期研修講座 年1回 ⑩ 教師力「UPる」研究員事業 年4回 ⑪ 小学校外国語活動研修講座 年1回 ⑫ 教育講演会 年1回					
事業実績	① 教務主任連絡協議会 年2回 6/20 1/9 ② 生徒指導連絡協議会 年1回 10/20 ③ 幼保小連携研究協議会 年1回 6/26 ④ 理科主任会議 年2回 4/11 12/5 ⑤ 初任教員研修講座 年1回 7/8 ⑥ 幼児児童教育実技研修講座 年1回 8/5 ⑦ 理科実技研修会 年3回 4/21 8/6 12/26 ⑧ 研修主任研修講座 年1回 5/7 ⑨ 夏期研修講座 年1回 7/24 ⑩ 教師力「UPる」研究員事業 年4回 5/15 8/20 11/25 2/3 ⑪ 小学校外国語活動研修講座 年1回 5/9 ⑫ 教育講演会 年1回 7/24					
点検・評価	B	各講座ともねらいを明確にし、そのねらいに沿うように研修内容を企画した。				
今後の課題等	アンケート結果をもとに、より教員のニーズに適した研修内容となるようにしたい。					
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ					



予 算	現計予算額	598,000円	前年度比	3.2%減
事業計画	① 初任教員研修講座 年1回(該当者なし) ② 幼児児童教育実技研修講座 年1回 ③ 理科実技研修会 年3回 ④ 研修主任研修講座 年1回 ⑤ 夏期研修講座 年1回 ⑥ 教師力「UPる」研究員事業 年4回 ⑦ 小学校外国語活動研修講座 年1回 ⑧ 教育講演会 年1回			

【外部評価 B】

学習指導研究校の指定・公開授業の実施が教員の負担になるとの判断で廃止されたことは残念に思うが、担当校と担当教諭の負担軽減を図るためにはやむを得ない結論だと思う。子どもとのふれ合いの時間確保のために廃止するということであるが、今後の授業や児童生徒との関わりがどのように変化したのかを知りたいところである。目的である「教育課題の解決」に向けて、計画訪問や要請訪問の内容を変えるなど、教員の負担を強いることのない代換えの方策を検討し、次年度の施策に反映させることも必要である。

教育研修講座の実施では研究会参加者数の記載はないが、多忙であるとして参加しない先生方もいると推測される。自らの資質向上の機会を逃すことなく参加していただきたいし、そのためにも講座や研修内容が教職員のニーズにあった魅力的なものになるよう企画していただきたい。

教員の資質向上は、教育現場においては必要不可欠なことだと思うが、多忙を極める教育現場の教員が参加する機会を確保するためには、常に研修内容の精査と参加しやすい環境整備が条件となることから、今後も、アンケートやニーズを重視しながらの取り組みを期待する。「教職員の人材育成評価システム」と結びつけて、一人一人が自己研修を大事にするよう自らの目標・方策を持つきっかけにしてほしい。

平成27年度に事務連絡的な会議が事業計画から削除されたのは適切と思う。

(3) 教育相談の充実 (H26・H27変更なし)

教育に関する諸問題の解決に向けて、児童生徒、保護者、教職員の相談に応じ、児童生徒の望ましい人格の成長への援助を図る。

平成26年度 施策ア	【継続】教育相談室の開設(指導課) 児童生徒、保護者、教員からの相談に応じ、必要な助言・支援を行う。			
予算・決算	現計予算額	45,000円	決算額	34,579円
		前年度比		同額
事業計画	① 電話相談 火～金 9:30-15:30 市教育相談室			

	月～金 9:00-16:00 市教育委員会指導課		
	② 来室相談 予約制 市教育相談室、市教育委員会指導課		
事業実績	教育相談件数・・・指導課36件、教育相談室97件 指導課 児童生徒と教師の人間関係、児童生徒の保護者の問題、児童生徒同士の人 間関係、児童生徒の問題行動、学校の指導の仕方 教育相談室 家庭の問題や児童生徒自身の発達障害等が要因となっている不登校及び集 団への不応適について		
点検・評価	A	様々な悩みを抱える相談者に対して、きめ細かに対応するため、学校や 関係機関と連携を図りながら問題解決の支援を行っている。	
今後の課題等	相談者への傾聴姿勢と丁寧な対応に努めるとともに、多様なニーズやケース に応じ、児童生徒のための問題解決という視点で働きかけていく必要がある。		
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ		
予算	現計予算額	80,000円	前年度比 77.8%増
事業計画	① 電話相談 火～金 9:30-15:30 市教育相談室 月～金 9:00-16:00 市教育委員会指導課 ② 来室相談 予約制 市教育相談室、市教育委員会指導課 ③ 備品の購入 電話機		35,000円   45,000円

【外部評価 A】

社会環境や生活様式の変化に伴って児童生徒を取り巻く諸問題が、今後、ますます多様化及び深刻化することが予想されるなか、相談の窓口が充実していて、相談者への助言、支援はもちろん学校との連携、関係機関との連携もよいと感じる。

家庭内では解決が難しい場合も多いと思われ、学校や関係機関の細やかな見守りや支援が必要となることからそれぞれの事例にあわせて児童生徒が健やかに育つことが出来るよう問題解決に取り組んでいただきたい。

とくに、ADHDなどの発達障害や心の問題に関する悩みは、福祉・医療機関との連携が不可欠であると同時に窓口でのファーストコンタクトが重要となってくる。

関係機関との連携強化は勿論必要だが、窓口対応にあたる職員のスキル向上の機会を設けることは優先的に取り組むべき課題であり、次年度の事業計画に反映させる必要性を感じる。

(4) 不登校児童生徒の解消（H26・H27変更なし）

長期欠席をしている不登校児童生徒が在籍校に復帰するための環境を整える。

平成26年度 施策ア	【継続】学習適応指導教室の開設（指導課） 児童生徒が自己の存在感を実感でき、精神的に安心することができる場所を提供するとともに、諸活動を通して自主性や主体性を育み、たくましく生きる力を養う。併せて、再登校に向けての諸条件の整備や指導・助言を行う。			
予算・決算	現計予算額	4,220,000円	決算額	3,759,545円
		前年度比 同額		執行率 89.1%
事業計画	火～金 学習適応指導教室相談員が対応 黒石市勤労青少年ホーム2階 主に学習適応指導教室で指導するが、相談員が学校へ出向いて指導する「移動教室」も行っている。			
事業実績	学習適応指導教室 通室児童生徒数 中学校第2学年3人 卒業後の生徒に対する相談やフォローアップ			
点検・評価	A	学校や関係機関との連携を密にし、個々のニーズに応じた支援及び指導をしている。		
今後の課題等	家庭や保護者の問題及び児童生徒自身の発達障害等による不登校は年々増加傾向にあるため、研修を通して、相談員の専門性を高める必要がある。			
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予算	現計予算額	4,220,000円	前年度比	同額
事業計画	火～金 学習適応指導教室相談員が対応 黒石市勤労青少年ホーム2階 主に学習適応指導教室で指導するが、相談員が学校へ出向いて指導する「移動適応指導教室」も行っている。			

【外部評価 A】

近年、発達障害等社会にうまく適応できない子どもが増加しており、その対応には専門的な知識が必要であろう。

学習適応指導教室は、家庭や学校で居場所がないと思う子ども達にとって安心できる場所であるよう、相談員は、関係機関と連携をとりながら、長期欠席の生徒が自ら登校できるきっかけづくりや環境づくり等に努力してほしい。

学習適応指導室の開設については、施策に沿って明確な趣旨と事業実施によって効果があると考えるため、今後の課題に挙げている「発達障害等に対応できる相談員」の専門性を高める必要性から、早急な計画の策定と明文化によって次年度の施策に盛り込むなど市教委全体として取り組んでいただきたい。

(5) 適切な就学指導の推進 (H26)

市内の学校に入学予定又は在籍する児童生徒で、障害があると思われる児童等の適切な就学を図る。

特別支援教育の推進 (H27)

国が目指す共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を図るため、事務執行の仕組みを整え、適切な就学を図る。

平成26年度 施策ア	【継続】適切な就学先の決定（学校教育課） 就学指導委員会の判定に基づき、保護者の意見も踏まえながら適切な就学先を決定する。			
予算・決算	現計予算額	436,000円	決算額	383,583円
		前年度比 30.5%増		執行率 88.0%
事業計画	① 教育機関からの総合診断依頼			41,000円
	② 専門員による調査			213,000円
	③ 就学指導委員会による審議 年6回			182,000円
	④ 審議結果及び保護者の意見を基に就学先を決定			
事業実績	① 総合診断依頼 21件 就学前児童6件・中学進学前7件・普通学級から8件			31,800円
	② 専門員による調査 H26.7-12月 26件 認知処理機能・基礎学力を個別式で測定できる検査用具の購入			200,653円
	③ 就学指導委員会による審議 委員12人 H26.6-H27.1で6回審議			151,130円
	④ 決定した就学先 特別支援学校2人・通常学級へ1人・通常学級へ変更1人・特別支援学級17人(継続で通学校へ進級5人・新規12人)			
点検・評価	A	就学先の決定にあたり保護者との合意形成を十分図りながら審議し、就学指導委員会の専門的審議を経て適正な判定と就学相談が実施できた。		
今後の課題等	法改正に伴う柔軟な相談体制を再構築して現体制に加えて整備し、適切な就学を図る。			
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予算	現計予算額	307,000円	前年度比	29.6%減
事業計画	① 教育機関からの総合診断依頼			130,000円
	② 専門員による調査			38,000円
	③ 就学指導委員会による審議 H27.7-12 年6回			139,000円
	④ 審議結果及び保護者の意見を基に就学先を決定			

平成27年度 施策ウ	【追加】特別支援教育体制の整備（学校教育課） 発達障害等により支援が必要な児童生徒に関する就学相談等教育委員会の体制を構築する。			
予 算	現計予算額	— 円	前年度比	— %
事業計画	就学相談・指導・就学先決定までの事務執行体制の構築			

平成26年度 施策イ	【継続】特別支援教育支援員の配置（学校教育課） 発達障害等により支援が必要な児童生徒が、安全で安心な学校生活を送る上で必要な支援を行う。			
予算・決算	現計予算額	17,029,000円	決 算 額	16,885,185円
		前年度比 1.2%減		執行率 99.2%
事業計画	学校からの申請により予算の範囲で小・中学校に14人を配置			
事業実績	① 支援員の配置		16,857,673円	
	小学校 12人 14,441,734円 黒石・北陽・浅瀬石・追子野木 各1人／六郷2人／中郷・黒石東 各3人 中学校 中郷2人 2,415,939円			
点検・評価	A	支援員を望む声は依然として多く、要望に応えきれない現状であるが、要望の精査をし、予算に応じた適正な人員配置ができた。		
		今年度は、課題となっていた支援員のスキルアップを図るため、研修会へ参加させることができた。		
平成27年度 施策イ	【改善】特別支援教育環境の整備（学校教育課） 発達障害等により支援が必要な児童生徒が、安全で安心な学校生活を送る上で必要な支援を行うため、教育環境の整備を図る。			
予 算	現計予算額	17,168,000円	前年度比	0.8%増
事業計画	① 特別支援教育支援員の配置 小・中学校に14人 ② 支援員のスキルの向上 研修会への参加促進			

【外部評価 A】

就学指導委員会では総合診断依頼から就学先の決定まで関係機関との協議を経て適切に進められている。発達障害等のある児童・生徒を自立へ向けて成長させていくのは多種多様であるがために容易ではないが、今後とも、保護者と理解を深めながら児童生徒の能力・個性にあった教育が受けられるよう慎重な審議を行っていただきたい。

インクルーシブ教育については、障害者の権利擁護という視点から、今後、ますます重要性が高まるものと思われる。その意味において、支援員をスキル向上のための研修会に参加させ、単なる事業実施から体制及び環境整備に施策を改善したことは評価できる。また、インクルーシブ教育の構築については、保護者が対象児童の将来を見据えた的確な判断に寄与

する知見が必要となる重要性を認識した上で、毎年、計画の軌道修正を図るなど施策遂行のための努力が垣間見える。

課題にあるとおり、柔軟な相談体制構築において更に努力していただくことを期待する。

ただ、今後ますます問題が輻輳し、ニーズも増えることを勘案すれば、就学指導委員会は教育に精通した指導課に置き、専門の知識を有する選任の相談職員を配置するなど根本的な体制構築が必要だと考える。将来的には、就学について適正な判断をするだけの就学指導委員会を見直し、早期から一貫した支援をする教育支援委員会に移行することも考えられる。

また、適正な人員配置とあるが、あくまでも予算の範囲内であり、現場の要望に対する支援員の配置は6割にとどまっている。できるだけ希望に添った配置のための予算措置がなされるよう、関係部署に対して施策の重要性をアピールする努力を期待する。

学校としては、支援員の存在はありがたいと思う。支援員の研修を重視しながら進めてほしい。

(6) 学校適正配置の推進 (H26・H27変更なし)

教育委員会が示す適正規模に近づけ、児童生徒の教育環境を適正に保つため、小・中学校の規模の改善を図る。

平成26年度 施策ア	【継続】審議組織の設置（学校教育課） 統合予定区域ごとに組織して諸問題を審議し、統合校における学校運営等に関する諸問題の解決にあたる。			
予算・決算	現計予算額	— 円	決算額	— 円
		前年度比		—
事業計画	小学校3か所、中学校2か所に審議組織を設置			
事業実績	H26.6 庁内連絡会議(2回開催) H26.9 市議会議員全員協議会			
点検・評価	C	義務教育制度及び統廃合に関する指針の見直し、地域からの要望や市の財政状況などから総合的に判断し、学校適正配置の方針を一部見直すことにした。そのため統合校の枠組みが確定しておらず、審議組織の設置には至らなかった。		
今後の課題等	審議組織の立ち上げの前に統合校の枠組みが決定していなければならず、まずは、統合校を確定させることが先決であると考える。			
平成27年度 施策ア	【追加】統合枠組みの決定（学校教育課） 小・中学校を取り巻く環境や地域の実情を踏まえて小・中学校の適正規模を見極め、統合の枠組みを早期に決定する。			
予算	現計予算額	— 円	前年度比	— %
事業計画	小・中学校の統合枠組みを決定			

平成27年度 施策ウ	【改善】学校統合の実施（学校教育課） 統合実施計画に基づき、小・中学校の統合を実施する。			
予 算	現計予算額	— 円	前年度比	— %
事業計画	黒石中学校、六郷中学校及び東英中学校の統合に係る審議組織を設置			

平成26年度 施策イ	【継続】統合実施計画の策定（学校教育課） 学校の統合に関する具体的タイムスケジュールや諸課題の解消など統合までの作業などを示す資料を作成する。			
予算・決算	現計予算額	— 円	決 算 額	— 円
		前年度比		—
事業計画	小学校3校、中学校2校の統合実施計画を策定			
事業実績	H26.10 六郷地区説明会/中郷小保護者説明会 H26.12 東英小5・6年生・東英中1年生保護者説明会 H27. 2 市連P役員会における説明会/東英中1年生保護者説明会 H27. 3 東英小5・6年生・東英中1年生保護者説明会/上十川小保護者説明会			
点検・評価	C	昨年度の反省として上げられた計画の甘さは、平成26年度の施策反映に間に合わず、実績が昨年度と同様の結果になった。さらに、施設の老朽化により東英中の統合年度前倒しの検討がなされ、保護者との協議に時間を要したため、実施計画の策定に至らなかったが、平成29年度の黒石中、六郷中、東英中の統合、平成30年度の六郷小と上十川小の統合については、地区説明会等で説明を重ねたことにより、一定の理解を得ることができた。		
今後の課題等	一斉に計画を策定せず、理解が得られ、統合実施可能な学校から順次進めていきたい。			
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ			
予 算	現計予算額	— 円	前年度比	—
事業計画	黒石中学校、六郷中学校及び東英中学校の統合実施計画を策定			

#### 【外部評価 C】

統合の枠組み決定、それに続く審議組織の設置がされていないことは、将来の児童・生徒の学習環境の整備に大きな影響を及ぼすことになる。地区住民の理解を得ることができた地域もあることは、説明会等を継続し、真摯に保護者や地域住民に対応してきたことの成果であろう。学校適正配置の方針、根拠が今後の教育環境や地域の将来を見据えて十分に審議されたものであれば、保護者や地域住民の理解を得られるものとする。誠意を持って説明会等に取り組み、早期に学校統合の枠組みの決定や審議組織の設置ができるよう取り組んでいただきたい。

学校の統廃合については教育委員会が進めていくことは当然のことであるが、都市計画、

建設、財政など黒石市全体で取り組むという姿勢と、市民の意識付けが不可欠だと考える。市長、教育委員会のすり合わせにとどまらず、市役所各部との連絡調整を密にしながら、市としての姿勢や方向性の統一化を図り、社会教育課とも連携しながら計画的に説明会を開催し住民の理解を得るよう進めてほしい。

(7) 学校完全給食の実現

食育を通して健康教育を推進するため、学校完全給食の実現のうち平成30年度の小学校完全給食の実施をめざし検討していく。(H26)

食育を通して健康教育を推進するため、学校完全給食の実現のうち平成32年度の小学校完全給食の実施をめざし検討していく。(H27)

平成26年度 施策ア	【継続】小学校給食実施計画の策定（学校教育課） 小学校の完全給食に関する具体的タイムスケジュールや諸課題の解消など完全給食実施までの作業などを調査・検討する。			
予算・決算	現計予算額	— 円	決算額	— 円
		前年度比 — %		執行率 — %
事業計画	小学校完全給食実施計画策定に係る調査・検討			
事業実績	<p>H26. 9 弘前市との給食提供に係る協議 当市への供給開始3年前前から着手するとの回答を得ており、統合枠組みが確定次第、速やかに協議を再開 田舎館村学校給食センター視察</p> <p>その他 PFIによる黒石市学校給食センター設置、民間活用による給食実施等、様々な方式による完全給食実施の可能性について引き続き調査、検討</p>			
点検・評価	C	統合枠組みが決定していないため、完全給食実施にも影響を及ぼしているが、あらゆる方式について模索している。		
今後の課題等	統合の枠組みが先決と考える。			
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予算	現計予算額	— 円	前年度比	— 円
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

【外部評価 C】

学校適正配置と直結している事業のため、学校統合の枠組みや方針が実施計画を大きく左右することは理解できる。統合計画が明確でない現状では着手の方向性が容易に定まらない



のもやむを得ないと思われる。あらゆる方向で模索とあるが、児童数がある程度明らかであるため、統合枠組み決定以前であっても様々な方向からの試算は可能であると思われる。どのような枠組みになっても柔軟に対応できるように取り組んでいただきたい。

学校の統廃合の実施後すぐに全小学校に学校給食を配給できるように安全・安心にも配慮し、どの方法が最もふさわしいか調査研究を進めてほしい。

(8) 学校施設・設備の整備 (H26・H27変更なし)

教育環境整備のほか地域の防災拠点機能の確保のため、学校の施設・設備の整備及び改善を図る。

平成26年度 施策 ア	【継続】学校施設耐震補強の推進 (学校教育課) 要補強と判定された学校施設の耐震補強を実施する。			
予算・決算	現計予算額	17,583,000円	決算額	17,582,400円
		前年度比 77.6%減		執行率 99.9%
事業計画	学校施設耐震補強工事実施設計 黒石中体育館			
事業実績	学校施設耐震補強工事実施設計 黒石中体育館			
点検・評価	B	計画通りに事業を進め、構造上危険な建物の改築工事の実施設計を行うことができ、次年度の改築工事に繋げることができた。		
今後の課題等	耐震化をしない施設の今後の対応を明確にすることが課題となっている。			
平成27年度 施策 ア	【改善】学校施設耐震化の推進 (学校教育課) 耐震基準を下回る学校施設の解消を図る。			
予算	現計予算額	365,127,000円	前年度比	激増
		事業計画		
黒石中学校屋内運動場改築工事 黒石中学校屋内運動場改築工事監理業務				

平成26年度 施策 イ	【継続】施設・設備の維持管理の充実 (学校教育課) 施設・設備を適正に使用する上で必要な維持管理を行う。			
予算・決算	現計予算額	82,949,000円	決算額	82,210,608円
		前年度比 13.8%減		執行率 99.1%
事業計画	① 補修等工事・修繕			61,638,000円
	② 機械警備業務 幼稚園1校・小学校10校・中学校4校			8,240,000円
	③ 設備の保守点検 防災設備・電気保安・ダムウェータ・空調・地下貯油槽・体育器具・プール・ボイラー・エレベータ			8,032,000円
	④ 外構整備			5,039,000円

	剪定伐採・除雪		
事業実績	① 補修等工事・修繕		61,541,748円
	工事	学校施設全校(廃校含む。)で実施	
	修繕	学校施設全校(廃校含む。)で実施	
	② 機械警備業務		8,238,672円
		小学校10校・中学校4校・幼稚園1校で実施 H26.4-H27.3	
	③ 設備の保守点検		7,758,408円
	消防設備等	学校施設全校(廃校含む。)で実施 H26.4-H27.3	
	電気工作物	学校施設全校(廃校含む。)で実施 H26.4-H27.3	
	ダムウエータ	小学校4校・中学校1校で実施 H26.4-H27.3	
	空調	小学校5校・中学校2校で実施 H26.6-H26.9	
	地下貯油槽	小学校8校・中学校3校で実施 H26.8-H26.10	
	体育施設	小学校10校・中学校4校で実施 H26.6-H26.9	
	遊戯施設	小学校10校・中学校1校・幼稚園1校で実施 H26.6-H26.9	
	プール	小学校3校で実施 H26.6-H26.9	
ボイラー	小学校3校・中学校1校で実施 H26.4-H27.3		
エレベータ	小学校1校で実施 H26.4-H27.3		
④ 外構整備		4,671,780円	
剪定伐採	小学校8校・中学校2校・幼稚園1校で実施 H26.6-H27.3		
草刈・除雪	小学校9校・中学校3校・幼稚園1校・廃校施設で実施 H26.12-H27.3		
雪囲い	小学校1校・幼稚園1校で実施 H26.11-H27.3		
点検・評価	B	計画的に学校施設設備の維持管理を行うほか、緊急の補修等に対応することにより、安全等は確保されたが、老朽化が進み修繕が必要なものの対応ができていないものもある。	
今後の課題等	老朽化が進み修繕が必要なものの対応ができていないものは、更新時期を見定め、長期計画をたてて老朽化対策を進めていくことが必要と考える。		
平成27年度施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ		
予算	現計予算額	68,412,000円	前年度比 17.5%減
事業計画	① 補修等工事・修繕		47,894,000円
	② 機械警備業務		8,240,000円
		幼稚園1校・小学校10校・中学校4校	
	③ 設備の保守点検		7,942,000円
	消防設備・電気保安・ダムウエータ・エレベータ・プール・空調・地下貯油槽・ボイラー・体育器具・遊具		
④ 外構整備		4,336,000円	
	剪定伐採・除雪・草刈・雪囲い		

【外部評価 B】

六郷小学校の悲しい事故が発生したことで、児童生徒の安全確保について、市民は今まで以上に過敏になっていると推察する。老朽化している校舎が多くなっており、学校の統廃合に向けて作業を行っている中で補修工事、修繕等の長期計画を立てることは難しいことと思われるが、学校施設の耐震補強・維持管理等は児童生徒の安全確保に直結している事業であり、学校の状況を確認しながら対応していただきたい。

同時に、緊急性を要する修繕等の対応を早急に図ることを期待する。

地域の防災拠点としての機能は、耐震補強のみではないと考えるが、重点施策に明記している以上、今後、少しずつ防災拠点としての役割や機能確保に向けての取り組みについての検討の機会を設け、計画及び整備状況や体制について市民へ周知する必要があると考える。

耐震補強や施設・設備の工事は統廃合を考慮しつつも、安全を第一に今後も計画的に進めてほしい。

(9) 学校教育環境の整備 (H26・H27変更なし)

子どもの学ぶ意欲を高め、健康で安全な学校生活を送るための環境整備に努める。

平成26年度 施策 ア	【継続】学校管理用備品の整備（学校教育課） 安全で快適な学校生活に必要な備品の整備を行う。					
予算・決算	現計予算額	15,729,000円		決算額	15,713,082円	
		前年度比	4.6%増		執行率	99.9%
事業計画	① 外構整備備品の更新 除雪機 小学校3校 ② 机、椅子等児童生徒用備品の更新 ③ 校務用パソコン等教職員用備品の更新 ④ 保健、給食用の備品の更新 ⑤ 品質保持期限到来による備品の更新					
事業実績	① 外構整備備品の更新 3,464,997円 修繕(除雪機等) 小学校1校 227,470円 購入(除雪機等) 小学校3校・幼稚園1校 3,237,527円 ② 机、椅子等児童生徒用備品の更新 4,824,576円 購入 小学校5校・中学校2校 ③ 校務用パソコン等教職員用備品の更新 1,656,255円 修繕 小学校9校・中学校3校 679,935円 購入 小学校7校 976,320円 ④ 保健、給食用の備品の更新 991,407円 購入(保健) 小学校3校・中学校2校 308,556円 (給食) 小学校4校 682,851円 ⑤ 品質保持期限到来による備品の更新 438,426円					

	購入(ガスメーター・消火器等) 小学校4校・中学校1校		
	⑥ 暖房器具の更新		1,694,908円
	修繕	中学校1校	3,564円
	購入	小学校4校・中学校1校	1,691,344円
	⑦ その他学校管理用備品の更新		2,642,513円
	修繕	小学校3校・中学校1校	215,438円
	購入	小学校9校・中学校4校	2,427,075円
点検・評価	B	学校の要望を聴取し、学校生活に必要な備品の整備を行った。	
今後の課題等	要望と必要性の見極めに検討を要する。		
平成27年度施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ		
予算	現計予算額	14,973,000円	前年度比 4.8%減
事業計画	① 外構整備備品の更新 除雪機 小学校3校 ② 机、椅子等児童生徒用備品の更新 ③ 校務用パソコン等教職員用備品の更新 ④ 保健、給食用の備品の更新 ⑤ 品質保持期限到来による備品の更新 ⑥ 暖房器具の更新 ⑦ その他学校管理用備品の更新		

平成26年度施策イ	【継続】教育振興用備品の整備(学校教育課) 授業環境の向上に必要な教材備品の整備を行う。		
予算・決算	現計予算額	37,457,000円	決算額 36,980,808円
		前年度比 24.2%減	
事業計画	① 教材備品の更新 10,360,000円 ② 情報教育環境の整備 28,894,000円 教育用パソコンの更新		
事業実績	① 教材備品		8,552,298円
	理科教育振興法関連備品(国の補助対象備品)		1,133,784円
	理科教育備品(補助整備率30.7%)		1,014,012円
	小学校 3校	557,388円	中学校2校 456,624円
	算数・数学教育備品(補助整備率22.3%)		小学校2校 119,772円
	その他単独整備教材備品		7,418,514円
	小学校10校	5,073,148円	中学校4校 2,345,366円
	② 情報教育環境の整備		28,428,510円
	教育用パソコンリース・保守(各校1学級分のパソコン環境を確保)		
点検・評価	B	各校と協議しながら予定通り整備を進めていくことができた。	

今後の課題等	整備にあたっては、国の補助整備率を上げることが課題となっている。		
平成27年度施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ		
予算	現計予算額	36,429,000円	前年度比 2.7%減
事業計画	① 教材備品の更新		9,639,000円
	② 情報教育環境の整備		26,790,000円

平成26年度施策ウ	【継続】学校保健活動の充実（学校教育課） 子どもが健康で安全な学校生活を送る上で必要な環境の整備を行う。		
予算・決算	現計予算額	25,281,000円	決算額 25,009,109円
		前年度比 5.8%増	
事業計画	① 学校医・学校歯科医の配置		13,440,000円
	② 児童生徒・教職員健康診断の実施		5,233,000円
事業実績	③ 学校環境衛生基準・学校給食衛生管理基準に基づく管理		7,593,000円
	ガラス清掃・浄化槽清掃管理・受水槽清掃管理・煤煙測定・樹木薬剤散布・学校薬剤師による検査・給食員衛生検査・給食設備清掃・厨房施設ネズミ等駆除		
点検・評価	B	学校保健安全法に基づき幼児児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図るほか、適切な学習環境を確保するため養護教諭、学校医、学校薬剤師等と連携を図りながら円滑に実施できた。	
		衛生管理については、学校環境衛生基準等に基づき行うものが現状でよいのか検証する必要がある。	

平成27年度 施策ウ	【継続】平成26年度施策ウに同じ			
予 算	現計予算額	27,704,000円	前年度比	9.6%増
事業計画	① 学校医・学校歯科医の配置 13,440,000円 ② 児童生徒・教職員健康診断の実施 5,028,000円 ③ 学校環境衛生基準・学校給食衛生管理基準に基づく管理 9,236,000円 ガラス清掃・浄化槽清掃管理・受水槽清掃管理・煤煙測定・樹木薬剤散布・学校薬剤師による検査・給食員衛生検査・給食設備清掃・厨房施設ネズミ等駆除			

平成26年度 施策エ	【継続】学校図書館の整備（学校教育課） 子どもの学習意欲の向上と読書活動の推進を図る上で必要な学校図書館の環境整備を行う。			
予算・決算	現計予算額	2,237,000円	決 算 額	2,170,747円
	前年度比	27.3%減		執行率
事業計画	① 学校図書館の更新 ② 学校図書購入基金 学校図書指定寄附金の積立て			
事業実績	① 学校図書館の更新 1,670,675円 図書購入 市立学校全校で実施 ② 学校図書購入基金 学校図書指定寄附金の積立て 500,072円			
点検・評価	B	図書の更新は計画通りに実施できた。		
今後の課題等	図書管理の構築に検討を要する。			
平成27年度 施策エ	【継続】平成26年度施策エに同じ			
予 算	現計予算額	1,730,000円	前年度比	22.7%減
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

【外部評価 B】

児童生徒が安全な学校生活を送り、豊かな内容の授業を受けられるようにするための事業で、学校生活に必要な備品、教育備品等の購入や情報教育環境等の整備は、安全管理や教育環境確保のためには必要不可欠である。予算内において学校の要望を生かしながら計画的に進められており、医師や学校側との連携もうまく行われていると感じる。日々変化する教育環境に対応すべく、重複での購入がないよう学校内に保管している校内備品の確認も十分に行った上で、引き続き学校の希望を把握しながら整備に努めていただきたい。

なお、教科書の改訂に伴う新たに必要な備品の配備については最優先することを望むものである。

学校図書館の整備についての施策並びに実績については、現状の中で計画どおり進めていると見受けられるが、図書管理システムの構築については、学校の統廃合の進捗状況に影響す

ることから取り組みが見られない。児童生徒の要望に応え読書意欲を高めるためにも、十分な図書の整備と図書管理システムが必要と考えるため、有識者や関係者による検討の機会を設けるなど統合を想定した備えに時間を費やしてはどうか。

(10) 就学の援助 (H26・H27変更なし)

子どもに一定の教育を受けさせるため、経済的理由のある保護者に対し必要な援助を行う。

平成26年度 施策ア	【継続】幼稚園就園の奨励（学校教育課） 幼稚園の保育料の低額化を図る。			
予算・決算	現計予算額	7,941,000円	決算額	7,940,100円
		前年度比 7.3%増		執行率 99.9%
事業計画	① 市立幼稚園の保育料の減免			509,000円
	② 私立幼稚園保育料減免措置への支援 補助金の交付			7,432,000円
事業実績	① 市立幼稚園の保育料の減免 1校 対象者12人			509,000円
	② 私立幼稚園保育料減免措置への支援 補助金の交付 3校 対象者54人			7,431,100円
点検・評価	A	補助対象区分の拡大や、一人当たりの補助単価が増額となったことにより、保護者の経済的負担の軽減を図ることができ、補助金の交付についても要綱に沿って適正に実施することができた。		
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予 算	現計予算額	3,863,000円	前年度比	51.4%減
事業計画	私立幼稚園保育料減免措置への支援 補助金の交付 ※ 子ども・子育て支援制度へ移行のため、市立幼稚園の保育料減免は廃止			

平成26年度 施策イ	【継続】就学の援助（学校教育課） 小・中学校において必要な経費の一部を扶助する。			
予算・決算	現計予算額	31,874,000円	決算額	31,869,562円
		前年度比 3.1%増		執行率 99.9%
事業計画	① 就学援助費の支給 小・中学校の就学に要する経費の一部を援助			31,262,000円
	② 医療・学校給食の扶助			8,176,000円
	③ 特別支援教育就学の奨励			852,000円
事業実績	① 就学援助費の支給	482人受給	24,906,235円	
	小学生296人 9,830,286円	中学生186人	15,075,949円	
	② 医療・学校給食の扶助	延457人受給	6,446,612円	
	医療扶助 小学生 14人 123,373円	中学生 10人	89,203円	

	給食扶助 小学生273人 4,832,361円 中学生160人 1,401,675円			
	③ 特別支援教育就学の奨励 24人受給 516,715円			
	小学生19人 408,448円 中学生5人 108,267円			
点検・評価	A	就学援助実施要綱に基づき、認定者を精査し、確実に支給することができた。		
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ			
予 算	現計予算額	41,529,000円	前年度比	30.3%増
事業計画	① 就学援助費の支給 小・中学校の就学に要する経費の一部を援助			31,383,000円
	② 医療・学校給食の扶助			8,733,000円
	③ 特別支援教育就学の奨励			1,413,000円

### 【外部評価 A】

幼稚園教育を希望する保護者の経済的負担が軽減され、幼稚園就園奨励への条件整備となったことは評価したい。

また、就学の援助について対象者の認定を精査しているとのことであるが、家庭状況が把握し難い場合もあると思う。子どもの貧困が問題となっている社会状況の中、児童生徒が教育を受けられるよう、民生委員や学校の協力を得ながら実情を把握し事業を進めていただきたい。

子ども・子育て支援制度の施行によって利用者の保育料負担が変わること、規制緩和に伴って認定こども園が増幅することなど、さまざまな要因によって幼児教育を取り巻く環境も変わっていくと思われるが、その中で、子どもが一定の教育を受ける権利を確保するという目的に沿って柔軟な対応が図られることを期待する。

## 2 家庭や地域での学びを生かし、つながりを大切にする社会教育の推進

### (1) 青少年への教育活動の充実 (H26・H27変更なし)

著しく変化する環境に対応できる生きる力を育み、協調性や自主性等の社会性を養う。

平成26年度 施策ア	【継続】子ども会リーダーの育成（社会教育課） 集団生活を通して、子ども会リーダーとしての資質向上を図る。			
予算・決算	現計予算額	1,114,000円	決算額	624,671円
	前年度比	12.1%減		執行率
事業計画	子ども会リーダーレベルアップ研修会 年2回 各18人募集 公民館等においてグループワーク、野外実習、社会体験等を1泊2日で実施			



事業実績	子ども会リーダーレベルアップ研修会 第1回 H26. 10. 11-12 1泊2日 岩木青少年スポーツセンター 中学生6人・高校生11人 計17人参加 第2回 H27. 2. 11 黒石市勤労青少年ホーム 中学生1人・高校生 8人 計 9人参加		
点検・評価	B	研修生が、研修会で学んだレクリエーションゲームなどを各地区公民館等で実施している「子ども宿泊体験学習会」において指導実践することができ、集団生活を通して子ども会リーダーとしての資質の向上を図ることができた。	
今後の課題等	2回目の参加者が少ないので、日程調整等が課題である。		
平成27年度施策ア	<b>【改善】少年リーダーの育成（社会教育課）</b> 実践・研修活動を通して、子ども会や地域で活躍するリーダーの資質向上を図る。		
予算	現計予算額	602,000円	前年度比 46.0%減
事業計画	リーダーまるかじり体験塾 年4回 各20人募集 地域や学校でリーダー的な役割を担っている中・高校生を対象に講座やグループワーク、イベントの企画・実践		

平成26年度施策イ	<b>【継続】青少年の体験活動の充実（社会教育課）</b> 自然体験活動や社会体験活動を通して、精神的なたくましさや忍耐力、協調性、自主性を養う。		
予算・決算	現計予算額	1,670,500円	決算額 1,248,042円
		前年度比 17.8%増	執行率 74.7%
事業計画	① 子ども宿泊体験学習会 年1回 10地区各20人募集 583,000円 市内小学校5・6年生を対象に各地区公民館において社会体験や集団生活を実施 ② 知って得トク体験学習会 年1回 30人募集 702,500円 中学生を対象に県内においてレスキューや自然体験を1泊2日で実施 ③ 黒石まるかじり体験塾 年4回 20人募集 385,000円 中・高校生を対象に勤労青少年ホームにおいて職場体験、講座、グループワーク、イベント参加等を実施		
事業実績	① 子ども宿泊体験学習会 市内10地区指定管理者が実施 522,303円 ア 中郷公民館 H27. 2. 7-8 1泊2日 8人参加 かまくら体験、レクリエーションスポーツ、子ども雪まつり参加 イ 六郷公民館 H26. 11. 20-22 2泊3日 15人参加 活動新聞及び会食パーティー（家族や先生を招待して、子ども達が作った料理を食べてもらう。） ウ 山形公民館 H26. 12. 22-23 1泊2日 11人参加		

	<p>こけしの絵付け及び活動新聞づくり</p> <p>エ 浅瀬石公民館 H26. 10. 31-11. 1 1泊2日 13人参加  地元の史跡や歴史について学び、またこけしの絵付け体験、レクリエーションスポーツ</p> <p>オ 東公民館 H26. 8. 8-9 1泊2日 16人参加  防災頭巾づくりや手づくりピザ体験</p> <p>カ 中部公民館 H26. 9. 4-6 2泊3日 9人参加  手づくりピザ体験やレクリエーションスポーツ、豆腐づくり</p> <p>キ 牡丹平公民館 H26. 10. 11-12 1泊2日 9人参加  スポーツ体験やうどんづくり</p> <p>ク 追子野木公民館 H26. 11. 15-16 1泊2日 9人参加  ダンボール秘密基地や壁新聞づくり</p> <p>ケ 上十川公民館 H26. 12. 22-23 1泊2日 6人参加  日本原燃による化学体験及び子ども会活動の計画をたてる。</p> <p>コ 西部地区センター H26. 9. 26-27 1泊2日 8人参加  調理実習やレクリエーションスポーツ、市内探訪（黒石の魅力を探る。）</p> <p>② 知って得トク体験学習会 494, 467円  H26. 7. 28-28 1泊2日 十二湖リフレッシュ村 15人参加  日本キャニオントレッキング、西海岸の夕日見学、カニ及び磯釣り体験、自然観察、キャンプ活動</p> <p>③ 黒石まるかじり体験塾 231, 272円  第1講座 H26. 7. 5 黒石市勤労青少年ホーム 8人参加  人間関係づくりの体験プログラム</p> <p>第2講座 H26. 8. 9-10 虹の湖公園 7人参加  虹の湖公園で実践するイベント等の計画とその準備</p> <p>第3講座 H26. 9. 23 虹の湖公園 9人参加  虹の湖公園でイベントの実践（100名以上の来場あり）</p> <p>第4講座 H26. 11. 1 黒石市勤労青少年ホーム 8人参加  実践した結果の発表、レクリエーションスポーツ</p>
点検・評価	<p>B 各事業を通して生きるための知識・技術の習得や各学校から集まった異年齢の中で、コミュニケーション能力やプロデュースする力を高めることができ、集団生活のなかでのルールや協調性を学んだ。また、事業実施にあたり学校や各種団体の協力も得ることもできた。</p>
今後の課題等	<p>定着しつつある事業なだけにマンネリ化にならないよう進めていくことが必要と考える。</p>

平成27年度 施策イ	【改善】青少年の体験活動とキャリア教育の充実（社会教育課） 自然体験活動や社会体験活動を通して、精神的なたくましさや忍耐力、協調性、自主性を養うとともに社会人・職業人として自立できるような資質、能力、態度を養う。			
予算	現計予算額	905,000円	前年度比	45.8%減
事業計画	① 子ども宿泊体験学習会 年1回 10地区各20人募集 637,000円 市内小学校5・6年生を対象に各地区公民館において社会体験や集団生活を実施 ② 知って得トク体験学習会 年1回 20人募集 511,000円 中学生を対象に自然体験を中心に1泊2日で実施			

平成26年度 施策ウ	【継続】科学教室の開催（教育研究所） 理科実験や科学工作、自然体験を通して科学への興味関心を高め、自然を愛する心を育てる。			
予算・決算	現計予算額	156,000円	決算額	155,600円
		前年度比		同額
事業計画	① 科学教室 年2回 小学4-6年対象 ② 野外科学教室 年3回 小学4-6年対象 ③ 親子科学教室 年2回 小学1-3年・保護者対象			
事業実績	① 科学教室 H26. 10. 25 14人参加（小学生10人 保護者4人） H27. 1. 24 28人参加 ② 野外科学教室 春季 H26. 4. 26 梵珠 11人参加 夏季 H26. 7. 5 浅虫 21人参加 秋季 H26. 10. 4 梵珠 8人参加 ③ 親子科学教室 夏休み H26. 8. 18 43人参加 冬休み H27. 1. 7 47人参加			
点検・評価	B	参加児童の学年に合わせた内容で実施しているため、各教室とも概ね好評であった。冬季から秋季に移行して実施した野外科学教室は、参加児童の安全確保が図られた。		
今後の課題等	野外科学教室等参加人数が少なかったことへの対応が課題である。			
平成27年度 施策ウ	【継続】平成26年度施策ウに同じ			
平成27年度	現計予算額	228,000円	前年度比	46.2%増
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

平成26年度 施策工	【継続】成人式の開催 成人式を開催することで、成人への意識の啓発を図り、社会的責任と自覚を促す。			
予算・決算	現計予算額	666,000円	決算額	614,038円
		前年度比 4.5%増		執行率 92.2%
事業計画	成人式 1月 オープニング・記念式典・記念写真撮影			
事業実績	成人式 H27.1.11 津軽伝承工芸館 新成人305人参加 参加率74% オープニング(ねふたばやし)・記念式典・記念写真撮影			
点検・評価	A	アンケートにおいて参加者の70%の新成人が「大人として自覚を持った。」「社会に貢献したいと思った。」と回答しており、式典を実施したことで社会的責任と自覚を促すことができた。		
平成27年度 施策工	【改善】新成人への意識高揚（社会教育課） 成人式を実施することで、成人としての自覚と社会的責任への意識の啓発を図る。			
予算	現計予算額	643,000円	前年度比	3.5%減
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

#### 【外部評価 B】

<p>昨今の少子化や地域環境の変化に伴う様々な要因によって、子ども会の存続やあり方が問われる現状を踏まえ、平成27年度の事業計画において「少年リーダーの育成」に改めたことは評価できる。施策イから「まるかじり体験塾」を移行したことにより、施策と事業計画の整合性が一層図られた印象を受ける。また、施策の目的やそれに伴う事業計画、さらには、事業の組み替えなど取り組みに努力していることは十分理解できる。</p> <p>とくに、子ども会リーダーの育成、青少年の体験活動の充実では、子ども会リーダーレベルアップ研修で学んだことを地区公民館事業の中で発揮する機会をつくり、平成27年度の事業計画では二つの施策を関連付けて事業を実施するなど子ども会リーダーの資質向上に取り組んでいることがうかがえる。</p> <p>しかし、キャリア教育について、学校教育としてのキャリア教育と別であるという考え方は縦割り行政の歪みであり、連携や協力が遠からず参加者の増加や事業の効果に影響を及ぼすという認識が必要だと思う。</p> <p>子ども会については、存続の在り方についての方向性を明確にするために、関係機関や団体との協議の場を設けるなど、担当課としての役割を全うする姿勢や取り組みを期待する。</p> <p>宿泊体験学習会においても、各地区で工夫を凝らしての事業計画であろうが、地区ごとに実施という形態のほか、地区を越えての計画と事業実施もひとつの方法ではないだろうか。</p> <p>さまざまな分野での活用が期待できる「コミュニケーション能力向上」という目的に向けてますますの充実が図られることを期待する。</p> <p>科学教室は、実施時期の変更や、児童の安全と学年に合わせた内容での実施が成果をあげているようである。参加人数の減少が問題であるが、地区公民館と連携しての事業実施等、</p>
--

柔軟な対応が望まれる。それぞれの事業の参加者が毎年増加していない事実や要因を把握、分析することが必要と考える。

(2) 成人への教育活動の充実 (H26・H27変更なし)

心身ともに健康で生きがいのある充実した生活を送ることができる環境の充実を図る。

平成26年度 施策 ア	【継続】実年式の開催 還暦を節目とし、新たな社会参加への自覚と意欲の向上を図る。			
予算・決算	現計予算額	160,000円	決算額	122,533円
		前年度比 8.1%増		執行率 76.6%
事業計画	実年式 9月 記念式典・講演・記念写真撮影 対象者570人			
事業実績	実年式 H26.7.2 実年式及び実年を祝う会実行委員会の立ち上げ H26.9.7 実年式の開催 松安閣 88人(祝う会86人)参加 参加率15.4% 記念講演演題：生涯現役 講師：津軽サイコー代表取締役社長 福土収蔵 実年の会の設立支援 H26.10.28 実年の会設立準備委員会の発足 H26.12.14 実年の会【桜の会】(17組目)設立総会の開催			
	点検・評価	A	参加者からは「久々に懐かしい顔が見られてとても楽しい時間だった。」「黒石市政のことを考える良い機会になった。」と好評であった。また、式典を実施したことで、社会参加の自覚と意欲が図られた。	
平成27年度 施策 ア	【改善】社会参加の促進(社会教育課) 還暦を節目とし、実年式を実施することで新たな社会参加への自覚と意欲の向上を図る。			
予算	現計予算額	133,000円	前年度比	16.9%減
		事業計画		
実年式 9月 記念式典・講演・記念写真撮影、実年グループの育成				

平成26年度 施策 イ	【継続】くろいし市民大学の開設(社会教育課) 講座等の学習会を通して、一般教養や専門知識を養う。			
予算・決算	現計予算額	146,000円	決算額	80,115円
		前年度比 14.6%増		執行率 54.9%
事業計画	くろいし市民大学 6-12月 昼の部5回 80人募集 夜の部2回 30人募集			
事業実績	くろいし市民大学 申込者数73人 延べ249人参加 第1講座 H26.6.11 60人参加 テーマ：ラビアンローズ ～バラ色の人生を～ 講師：十和田バラ焼きゼミナール 舌校長 畑中宏之			

	<p>第2講座 H26.6.18 56人参加          テーマ：津軽発、モツケからジョッパリ・インターナショナル！          講師：ラブリー金木 角田周</p> <p>第3講座(弘前大学の放送大学と共同開催) H26.7.2 54人参加          テーマ：高齢者の肺の病気とその対応          講師：弘前大学保健管理センター 所長 高梨信吾</p> <p>第4講座(移動学習) H26.7.9 28人参加          青森県立美術館及び浅虫水族館の見学、のっけ井体験</p> <p>第5講座 H26.7.16 51人参加          テーマ：明治天皇巡幸と青森県          講師：青森県立郷土館 学芸主幹 竹村俊哉</p>		
点検・評価	B	<p>参加者からは「一回目の楽しい講義から始まり、最後の教養ある地域に関するお話、また一つ自分なりに知識が深まった感じ。」「とても有意義でよかった。いろいろ勉強になり、知らなかった事も良くわかった。」など学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>なお、夜間講座は実施することができなかった。</p>	
今後の課題等	<p>夜間講座の早めの準備が必要である。さらに、市民の学習意欲の向上を図るため、関心のあるテーマや講師の選別が重要と考える。</p>		
平成27年度 施策イ	<p>【改善】学習機会の提供（社会教育課）          平成26年度施策イに同じ</p>		
予算	現計予算額	167,000円	前年度比 14.4%増
事業計画	<p>くろいし市民大学 6-12月 昼の部5回 80人募集 夜の部1回 30人募集</p>		

【外部評価 B】

実年式については、成人式と同様、人生の区切りと考える年齢に達した人々のセレモニー参加であり、会の設立は途切れていた人々との絆の再構築の意味もあると考える。年金支給開始年齢の引き上げや再雇用を余儀なくされる社会の現状を考えると、事業の目的が時代背景に沿っていない感もあるが、同年代の人や社会との関わりを必要とする年代であると考えられるので、参加者が年々減少していても実施すべき事業であろう。しかし、事業についての抜本的な見直しは必要だと思われ、生活基盤のできている60歳代に必要なものを見極めを要すると思われる。実行委員の活躍が鍵となる気がする。式典参加者には好評ということであるが、参加しなかった人々へのフォローはどのように考えるのか。単なる同窓会で終わらないように指導していくことも必要と思われる。

市民大学については、昨年度と異なる講座内容で計画するなど趣向を凝らした内容とテーマ設定によって、好評を得ていることが伺え、参加者の学習意欲に十分応えたものとなったように思われる。しかし、夜間講座が実施できなかったことは残念であり、主催者側は、早期に計画に取り組み、より多くの市民が参加できるよう市民のニーズを把握し、時間的な配慮もするなどして実施してほしい。

(3) 家庭教育の向上 (H26)

家庭教育の任に当たる父母等に心身の修養に努める機会を与え、家庭の教育力向上を図る。

家庭教育の支援 (H27)

子どもの生活習慣の習得や自立心の育成など教の原点である家庭教育が、自覚と責任によって行われるよう、様々な学習機会の提供と支援者の人材育成・発掘により、幅広い家庭教育の支援に努める。

平成26年度 施策ア	【継続】家庭教育の充実（社会教育課） 講座等学習会を通して、子育ての必要性や重要性等家族のあり方や役割を認識する。			
予算・決算	現計予算額	503,000円	決算額	322,718円
		前年度比 16.9%増		執行率 64.2%
事業計画	家庭教育講座 7-12月 学校と連携4回 公民館と連携4回 中央研修2回			
事業実績	<p>H26. 7. 1 牡丹平小学校 85人参加 テーマ：学ぶ力と体力アップの食育 講師：東北女子大学家政学部家政学科准教授 今村麻里子</p> <p>H26. 9. 19 六郷小学校 56人参加 テーマ：夏から秋の星空をたんけんしよう 講師：すばるの会会長 工藤能継 他</p> <p>H26. 9. 26 浅瀬石公民館 25人参加 テーマ：親子で育もう 笑顔輝く子どもの未来 講師：国立大学法人弘前大学特任教授教職アドバイザー 齋藤厚</p> <p>H26. 10. 10 黒石小学校 38人参加 テーマ：小学生の今だから身につけさせたいこと ～子どもたちの可能性を伸ばすために～ 講師：中郷中学校教頭 相馬保</p> <p>H26. 10. 22 東公民館 50人参加 テーマ：子育て川柳奮闘記 講師：方言研究家 川柳作家 渋谷伯龍</p> <p>H26. 11. 1 中部公民館 83人参加 テーマ：田舎で子育て日記 講師：コラムニスト 山田スイッチ</p> <p>H26. 11. 26 社会教育課主催 81人参加 テーマ：続・笑って元気 ～家族はたいせつ口演記～ 講師 おおいた観光特使 矢野大和</p> <p>H26. 12. 3 西部地区センター 20人参加 テーマ：子どもの気持ち親の願い</p>			

	講 師：黒石あけぼの病院精神科医 古郡華子H26.12.5 六郷中学校 160人参加 テーマ：人生は君次第 ～上手くいく言葉の伝え方～ 講 師：アクア鍼灸整骨院 矢島実 H26.12.3 社会教育課主催 40人参加 テーマ：自身を持って社会で活躍できる子どもに育てよう 講 師：学校法人弘前城東学院 弘前医療福祉大学教授 小玉有子			
点検・評価	A	昨年同様に、参加した保護者からは食育についてや親子関係、子育てについて様々な知識を深めることができたことと好評を得た。 また、学校や公民館との連携を取る事で、学習ニーズに合った学習会を実施することができた。		
平成27年度 施 策 ア	<b>【改善】家庭教育の拡充（社会教育課）</b> 講座等の学習会を通して、子育てや家族のあり方・役割を認識させ、地域全体で家庭教育の支援体制づくりを進める。			
予 算	現計予算額	360,000円	前年度比	28.4%減
事業計画	家庭教育講座 7-12月 学校と連携6回 公民館と連携4回			

#### 【外部評価 B】

子育てに不安を抱えている家庭が7割を超えているといわれる現代社会において、この事業は重要な意味を持つものであり、多彩な内容の講座が開催され参加者から好評を得たのは、講座の計画に際して十分な検討が行われた成果であると考えます。

しかし、比較的内容が硬いのではないかと感じさせるようなテーマの時に参加者が少ないようで気がかりでもある。今後とも講座内容を精査し、保護者のニーズに合わせた学習会を企画し、児童を健やかに育む家庭の力を発揮できるように事業を進めていただきたい。

ただ、点検・評価については、参加者のアンケートや感想の聴取に基づいて第三者的な立場として「家庭教育推進協議会」の意見を仰ぎ、客観性を担保することで今以上の効果が発揮できると考える。

また、平成27年度の施策に盛り込まれた「地域全体で家庭教育の支援体制」については、好評を得た結果や培った人材を活かす場面を構築することに他ならず、そのために何をすべきかについて社会教育課としての検討が十分に図られることを期待する。

#### (4) 地域教育力の向上（H26・H27変更なし）

住民主導型の具体的・実践的な企画運営による「個性ある地域活動」の充実をめざし、学校及び地域の連携による教育力の向上に努める。

平成26年度 施 策 ア	<b>【継続】公民館職員の資質向上（社会教育課）</b> 研修会等学習会を通して、公民館業務を行う職員の資質向上を図る		
-----------------	--	--	--



予算・決算	現計予算額	— 円		決 算 額	— 円	
		前年度比			— %	
事業計画	① 公民館等、社会教育課合同連絡会議 月1回 公民館活動で抱える課題等についての事例発表等を通しての検討及び協議 ② 中弘南黒公民館研修会、生涯学習ゼミナール等への参加周知					
事業実績	① 公民館等、社会教育課合同連絡会議 H26.4-H27.3 計12回 延400人参加 地区公民館等に関する情報交換と課題解決のための意見交換会及び公民館等・社会教育課による事務連絡や講義を交えた研修会等 ② 周知し参加を呼びかけた研修等 ア 公民館と住民のアシスト講座 H26.6.12 6人参加 H27.1.29 11人参加 イ 中南地方社会教育委員連絡協議会研修会 H26.6.26 8人参加 H26.10.2 5人参加 ウ 第55回青森県公民館研究フォーラム H26.9.25 8人参加 エ 第59回東北地区公民館大会 H26.11.13-14 7人参加 オ 地域で考え行動する公民館活性化事業成果発表会 H27.2.26 8人参加					
点検・評価	B	月1回の合同会議の内容に公民館職員の資質向上を図る講義等を取り入れたことで、様々な知識や情報を得て社会教育行政及び公民館活動への意識の高揚を図ることができた。また、県主催の研修会等へ参加させ、学習機会を与えたことで職員個々の能力向上に繋がった。				
今後の課題等	未だに研修会等への参加に消極的な職員がいることから、今後も職員との連携を図り、参加を促していく。					
平成27年度	次表平成27年度施策アに統合					

平成26年度 施策イ	<b>【継続】地区組織力の向上（社会教育課）</b> 情報交換の場や学習会の機会を通して、人づくり・絆づくりの機能や役割を学び、自主的に地域を活性化させる能力を養う。					
予算・決算	現計予算額	76,000円		決 算 額	44,100円	
		前年度比 90.0%増			執行率 58.0%	
事業計画	① 各地区協議会・各公民館等・社会教育課合同会議 年3回 ② 地域指導者等研修会（コミュニティネットワーク研修会）、学社連携研修会					
事業実績	① 各地区協議会・各公民館等・社会教育課合同会議 H26.4.25 45人参加					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育課の重点施策及び事業計画等について</li> <li>・各地区協議会・各公民館等の方針と重点及び事業計画について</li> <li>・事例発表 上十川公民館「上十川地区・公民館の10年のあゆみ」</li> </ul> <p>H26.10.8 53人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度予算等について</li> </ul> <p>H27.3.13 48人参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育課、各地区協議会、各公民館等の主要な事業計画について</li> </ul> <p>② 地域指導者等研修会</p> <p>ア 学・社連携研修会 H27.1.30 黒石市産業会館 50人参加</p> <p>テーマ：子育て支援としての社会教育の可能性 ～子どもは学校の外で何を学ぶのか～</p> <p>講師：国立大学法人弘前大学生涯学習教育センター講師 深作拓郎</p> <p>イ コミュニティネットワーク研修会</p> <p>H27.2.13 スポカルイン黒石 50人参加</p> <p>テーマ：公民館運営を通じた地域組織によるまちづくり</p> <p>講師：弘前学院大学文学部講師 生島美和</p>			
点検・評価	B	<p>地区協議会役員及び公民館職員が地域活動に関する課題を探るため、合同会議を通して情報交換や研修会を行うことで地区相互の共通理解を深めることができた。</p> <p>学校、地区協議会及び公民館等が、地域の課題解決や地域の子ども達を育成するため、関係団体が連携を密にし、いかに組織を強化していかねばならないかということを改めて気付かされた内容であった。</p>		
今後の課題等	今後、それぞれの地域において、どのように公民館等を拠点として関係団体が連携を強化していけるかが課題である。			
平成27年度施策ア	<p><b>【改善】地区組織力と公民館職員資質の向上（社会教育課）</b></p> <p>情報交換の場や研修会等での学びを通して、人づくり・絆づくりの機能や役割を学び、自主的に地域を活性化させる能力を養うとともに、地域コーディネーターの役割を担う公民館職員の資質向上を図る。</p>			
予算	現計予算額	317,000円	前年度比	317.1%増
事業計画	<p>① 地域指導者等研修会</p> <p>学・社連携研修会／コミュニティネットワーク研修会</p> <p>② 各地区協議会・各公民館等・社会教育課合同会議 年3回</p> <p>③ 公民館等、社会教育課合同連絡会議 月1回</p> <p>公民館活動で抱える課題等についての事例発表等を通しての検討及び協議</p> <p>④ 中弘南黒公民館研修会、社会教育担当者研修会等への参加促進</p>			

平成26年度 施策ウ	【継続】社会教育関係団体への活動支援（社会教育課） 社会教育関係団体の求めに応じた専門的な技術的指導を行い、社会教育に関する事業への支援を行う。			
予算・決算	現計予算額	170,000円	決算額	170,000円
		前年度比 0.6%減		執行率 100.0%
事業計画	① 補助金の交付 市連合婦人会、市子ども会シニアリーダー会 ② 事業企画への助言 市連合婦人会、市子ども会育成連合会、実年サークル			
事業実績	① 補助金の交付 170,000円 市連合婦人会150,000円（今年度は宮古市との交流事業があり、その分を補助金へ加算し交付した。） 市子ども会シニアリーダー会20,000円 ② 事業企画への助言 各団体が企画、主催する事業に対し、文書作成から事業実施までの支援を行った。			
点検・評価	B	出来る限り自主的に活動していけるよう、組織の強化と人材育成を図っていく。		
今後の課題等	他の社会教育団体と比べ、支援及び助言無くしては活動が滞ってしまう団体であるため、支援体制の偏りが出る。			
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策ウに同じ			
予算	現計予算額	110,000円	前年度比	35.3%減
事業計画	① 補助金の交付 市連合婦人会、市子ども会シニアリーダー会 ② 事業企画への助言 市連合婦人会、市子ども会育成連合会、実年サークル			

#### 【外部評価 B】

<p>団体や地区の活動がマンネリ化しないように関係職員は地域のコーディネーターとして資質向上を図る必要がある。体験的な研修や交流機会を増やすなど技量を高めてほしい。</p> <p>公民館職員の資質向上と地区組織力の向上は密接に結びついており、地域を牽引する人材の育成とその支援にあたる公民館職員の資質向上は不可欠である。それぞれの立場から共通理解を深め、職員の力量が住民サービスの不公平感に繋がりにくいことを認識し、課題に明記されている「研修会に消極的な職員」について、要因を聞き取るなど参加を促す取り組みを期待する。</p> <p>社会教育団体への活動支援については、担当課が支援体制の偏りを課題とし、昨年の外部評価でも透明性の確保が指摘されている。予算が流動的であることは考慮できるが、だからこそ予算枠の中で該当する団体への公平な周知による公募制を導入するなど、透明性の確保が重要になると考える。何より、社会教育団体の把握が成されていないことは、地域コミュニティを柱とする施政方針に大きく関わってくる事項であるという認識に立ち、早急に取り組む必要性を感じる。</p>
---

平成27年度においては、「公民館職員の資質向上」と「地域の組織力向上」が統合され、地域における公民館の重要性が鮮明に示されているものの、今後の課題に明記されている内容が前年度と同じであることは改善の取り組みが成されていないという印象で、地域組織力の向上は黒石市が掲げる重要施策として位置づけられていることを考え合わせると、点検・評価に基づく今後の課題等については早急な改善策を講じるか、課題解決に向けた検討など何らかの結果やプロセスが求められてしかるべきだと感じる。

(5) 読書活動の推進（H26・H27変更なし）

生涯にわたり読書習慣を身に付けられるよう読書環境を整備し、積極的な読書意欲の向上を図る。

平成26年度 施策ア	【継続】図書サービスの充実（社会教育課） 各種団体との連携・協力を得ながら利用者に応じた多様な資料の提供やレファレンスサービスの充実を図る。			
予算・決算	現計予算額	900,000円	決算額	900,000円
		前年度比 27.5%減		執行率 100.0%
事業計画	① 図書コーナーの運営 レファレンスサービス、共通利用券の発行、県立図書館との相互貸借 ② おはなし会の開催 ③ 図書選定会の開催			
事業実績	① 図書コーナーの運営 ア スポカルイン黒石図書コーナー事業 レファレンスサービス 8件 共通利用券の発行 102枚 県立図書館との相互貸借 534件 オンライン貸出取次ぎ 165件 図書貸出件数 8,306件 図書貸出冊数 28,177冊 イ 黒石ほるぷ子ども館事業 黒石ほるぷ子ども館情報の発行 毎月1回 山形公民館の広報紙に黒石ほるぷ子ども館の事業案内、図書の紹介や休館日などを掲載し地域住民に周知 ② おはなし会の開催 ア スポカルイン黒石図書コーナー事業（抜粋） 出前おはなし会 31回 延べ1,889人参加 読み聞かせおはなし会 9回 延べ68人参加 こどものつどい 1回 19人参加			

	製本講座 3回 延べ38人参加 夏のお楽しみ会 1回 41人参加 クリスマスおはなし会 1回 28人参加 ブックスタート支援 12回 220組の親子参加 イ 黒石ほるぷ子ども館事業（抜粋） おはなしのじかん 9回 延べ108人参加 夏休みチャレンジ 1回 13人参加 冬休みチャレンジ 1回 20人参加 ③ 図書選定会の開催 H26.9.12・H27.1.28 年2回 協力者：読書クラブ水よう会、おはなしむくむく会員等 書店での実物選定、新刊案内・パンフレットによる選定、利用者リクエストの活用、小中学校資料取扱センターからの巡回選定等 スポカルイン黒石図書コーナー 新刊図書購入 487冊 780,000円 ④ 黒石ほるぷ子ども館 新刊図書購入 95冊 120,000円				
点検・評価	B 図書コーナーでは、インターネットを利用し書籍検索や貸出取次サービスが可能であり、利用率も増加していることから、図書の貸し出しの充実が図られている。 図書コーナー及びほるぷ子ども館の主催事業では、子ども達に本にふれる機会を与え、読書への興味や楽しさを植え付ける活動が展開できている。また、協力団体の支援・協力を受けておはなし会等を実施することができ、図書館機能としても充実が図られた。 新刊図書の情報を提供するため、市広報や公民館紙紙を活用しているものの、図書購入費削減により、リクエストを受けても市民のニーズに沿った図書を提供することが難しくなっている。				
今後の課題等	今後の予算確保が課題である。				
平成27年度施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ				
予算	<table border="1"> <tr> <td>現計予算額</td> <td>870,000円</td> <td>前年度比</td> <td>3.3%減</td> </tr> </table>	現計予算額	870,000円	前年度比	3.3%減
現計予算額	870,000円	前年度比	3.3%減		
事業計画	① 図書コーナーの運営 レファレンスサービス、共通利用券の発行、県立図書館との相互貸借 ② 図書選定会の開催				

平成26年度施策イ	<b>【継続】読書意識の高揚活動の推進（社会教育課）</b> 関係機関と連携して読書活動を積極的に推進し、市民が積極的に読書する意欲を養う。											
予算・決算	<table border="1"> <tr> <td>現計予算額</td> <td>— 円</td> <td rowspan="2">決算額</td> <td>— 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年度比</td> <td>—</td> <td>執行率</td> </tr> </table>	現計予算額	— 円	決算額	— 円		前年度比	—	執行率			%
現計予算額	— 円	決算額	— 円									
	前年度比		—	執行率								
事業計画	読書活動推進協議会の設立促進											

事業実績	H26.6.24 小学校朝読の会、読み聞かせグループとの意見交換会 19人参加		
点検・評価	C	意見交換会を機にグループを立ち上げた団体もあり、各グループの活動に関する現状や問題点を出し合い、交流を図ることができた。 しかし、読書活動推進協議会の設立となると、ボランティア団体としては荷が重いなどの意見があり、設立は見送ることとした。	
今後の課題等	今後は、関係者相互が気軽に情報交換を行い、協力し合える交流の輪を広げるための意見交換会を継続させていく。		
平成27年度施策イ	【改善】平成26年度施策イに同じ 読み聞かせ等関係機関と連携して読書活動を積極的に推進し、市民が積極的に読書する意欲を養う。		
予算	現計予算額	81,000円	前年度比 皆増
事業計画	① おはなし会の開催 図書コーナー65,000円 黒石ほるぷ子ども館16,000円		81,000円
	② 読み聞かせや朝読グループとの交流会		

#### 【外部評価 B】

<p>本市の財政状況から、予算獲得が難しく新刊購入が十分に叶わない現状の中で、図書コーナーやほるぷ子ども館での事業は、協力団体の支援を得てお話し会や図書選定会等が着実に実施され、図書館職員と読書グループとの連携も図られていることを評価したい。</p> <p>図書サービスの充実については、利用者や関係する市民等の気運の醸成が唯一の取り組みであるように考える。読み聞かせやお話し会などのイベント開催や建築設計としての価値が高いほるぷこども館などのPRを通して、図書の拡充や図書館建設の気運を盛り上げていただきたい。</p> <p>読書活動推進協議会の設立促進については、設立計画がボランティア団体としては荷が重いという意見で見送られ、平成27年度についてはお話し会と交流会という実態に即したものに変わった。現在の読書活動を行う団体にとって読書活動推進協議会の設立が負担であろうと思うし、設立見送りもやむを得ないとする。ただし、読書に関する意欲促進という根底の施策は変わっていないことから、事業計画に謳う事業が、施策実現に向かうような具体的な目標を設定することが必要に思われる。</p> <p>現在の施設環境でも他にできるものはないのか考えてほしいと思う。</p>
--

#### (6) 社会教育施設の整備 (H26・H27変更なし)

社会教育推進の拠点となる各施設の整備を図り、施設が持つ機能を活かす管理・運営に努めるとともに生涯学習の振興を推進する。

平成26年度施策ア	【継続】社会教育施設の整備（社会教育課・文化スポーツ課） 利用者が快適で安全に施設を利用できるよう必要な整備を行う。
-----------	---

予算・決算	現計予算額	2,648,000円	決 算 額	2,563,380円
		前年度比 65.5%減		執行率 96.8%
事業計画	① 中部公民館都市ガス管入替工事			455,000円
	② 中央スポーツ館アリーナ上部排煙窓改修工事			205,000円
	③ スポカルイン黒石改修等工事			1,988,000円
事業実績	① 中部公民館都市ガス管入替工事			432,000円
	② 中央スポーツ館アリーナ上部排煙窓改修工事			194,400円
	③ スポカルイン黒石改修等工事			649,620円
	スポカルイン黒石音響設備プロセッサ取替工事			1,274,400円
	スポカルイン黒石テレビ電波障害対策施設撤去工事			12,960円
点検・評価	B	修繕等については速やかに対応し、施設の安全を確保することができたが、老朽化に伴い、計画以外にも修繕、工事箇所が増えている。		
今後の課題等	今後の予算確保が課題である。			
平成27年度 施策ア	【継続】社会教育施設の整備（社会教育課） 平成26年度施策アに同じ			
予 算	現計予算額	11,515,000円	前年度比	334.9%増
事業計画	① 中部公民館キュービクル内圧コンデンサ修繕			141,000円
	② 山形公民館玄関ドア改修工事			64,000円
	③ 浅瀬石公民館屋外水道復旧工事			398,000円
	④ 中部公民館集会室屋根改修工事			122,000円
	⑤ 中部公民館耐震補強工事			9,558,000円
	⑥ ほるぷ子ども館敷地内フェンス改修工事			1,232,000円

平成26年度 施策イ	【継続】社会教育施設の管理運営（社会教育課・文化スポーツ課） コミュニティ施設としての機能を発揮できるよう、管理体制を構築し、適切な運営を行うことで地域の活性化を図る。			
予算・決算	現計予算額	146,739,000円	決 算 額	146,739,000円
		前年度比 2.0%増		執行率 100.0%
事業計画	社会教育施設の管理運営に指定管理者制度を採用する。			
	① 農村環境改善センター			3,190,000円
	② 公民館(8館)			60,290,000円
	③ 西部地区センター			8,095,000円
	④ 勤労青少年ホーム・中央スポーツ館			15,359,000円
	⑤ スポカルイン黒石			58,894,000円
事業実績	⑥ 武道場			911,000円
	① 農村環境改善センター			3,190,000円
	② 公民館(8館)			60,290,000円

	③ 西部地区センター	8,095,000円
	④ 勤労青少年ホーム 中央スポーツ館	14,359,000円 1,000,000円
	⑤ スポカルイン黒石	58,894,000円
	⑥ 武道場	911,000円
点検・評価	B	指定管理者においては、施設の維持管理業務が計画的に実施され、予算も有効活用されている。 しかし、冬期間における指定管理者の危機管理意識に温度差があるため、コミュニティ施設としての機能を発揮できるよう指導していき、地域の活性化を図っていく。
今後の課題等	指定管理者においては、経理事務の適正な処理や備品等の整理など指導が必要である。	
平成27年度 施策イ	【継続】社会教育施設の整備（社会教育課） 平成26年度施策イに同じ	
予算	現計予算額	85,634,000円
	前年度比	0.6%減(同条件)
事業計画	社会教育施設の管理運営に指定管理者制度を採用する。 ① 農村環境改善センター 2,988,000円 ② 公民館(8館) 59,905,000円 ③ 西部地区センター 8,076,000円 ④ 勤労青少年ホーム 14,665,000円	

#### 【外部評価 B】

老朽化に伴う改修箇所は増加しているようであるが、施設整備は利用者の安全性の確保ができるよう計画的に進められていると思う。

施設の老朽化が進む中で、社会教育施設の整備・管理運営は市民が快適に活動できるようにするための事業であり、優先順位をつけることにも苦慮していると思われるが、施設の状態を確認するなどにより、根拠に基づく優先順位によって地域住民活動の要となる施設を安全に利用できるよう、今後も計画的に進めていただきたい。

管理運営についても施設管理のみならず地域住民の指導の役割も併せ持っているため、利用者の要望を確認しながら適正に事業を進めていただきたい。

前年度と同様の点検・評価結果が記載され、改善の兆しが伺えないこと等を踏まえ、指定管理者制度を設けることだけでは、施策に謳う「コミュニティ施設としての管理体制の構築」や「地域の活性化に寄与する」ことにはならないことを認識し、管理状況についての現状把握や指導・助言をとおして課題解決や施策実現をめざす努力を期待する。



### 3 歴史と文化を尊重し、感性と創造力を高める芸術文化活動の推進

#### (1) 文化財の保存と活用（H26・H27変更なし）

郷土に対する愛着と誇りを持ち、潤いのある市民生活を実現するため、未来へ伝える貴重な文化財の保存と活用に努める。

平成26年度 施策ア	【継続】伝統的建造物群の保存修理（文化スポーツ課） 黒石市中町伝統的建造物群保存地区を貴重な文化遺産として後世に残すため、修理・修景事業、防災対策事業及び環境物件保存事業等を推進する。				
予算・決算	現計予算額	118,514,000円	決算額	118,378,081円	
		前年度比 252.0%増		執行率 99.9%	
事業計画	① 旧松の湯再生2期工事			88,493,000円	
	労務費や資材単価等の高騰から設計変更に見舞われ、防災事業の計画を一部変更して当該事業を行った。また、初雪から根雪となった影響で工期を、3月から翌年度の6月まで延長し、事業を繰り越した。				
	② 伝統的建造物群保存地区防災事業			11,612,000円	
	防災事業の一部を次年度に繰り延べした。				
	③ 伝統的建造物の保存修理事業 古川家住宅			8,982,000円	
事業実績	④ 環境物件の維持管理 鳴海家住宅・高橋家住宅・西谷家住宅			183,000円	
	⑤ 中町地区防火水槽設置工事（平成25年度繰越事業）			9,244,000円	
	① 旧松の湯再生2期工事			98,369,802円	
	旅費50,400・需用費22,530・委託料4,990,056・工事請負費93,306,816				
	② 伝統的建造物群保存地区防災事業			1,599,439円	
点検・評価	B	伝統的建造物群保存地区では、これまで旧松の湯再生工事のほか、建物の修理事業や、こみせの修景工事を実施してきた。とくに、修理修景事業は、土蔵修理のほか新築した家屋に、こみせの設置を補助事業として行うことができたことは、今後のこみせ復原に弾みをつけることができた。			
		③ 伝統的建造物の保存修理事業 古川家住宅			
		土蔵7,001,000・こみせ1,981,000			
		④ 環境物件の維持管理 鳴海家住宅・高橋家住宅・西谷家住宅			
		鳴海家100,000・高橋家50,000・西谷家33,000			
今後の課題等	⑤ 中町地区防火水槽設置工事(平成25年度繰越事業)				
	9,243,840円				
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ				

予 算	現計予算額	240,215,000円	前年度比	102.7%増
事業計画	① 伝統的建造物の保存修理事業 岩谷家住宅			9,020,000円
	② 伝統的建造物群保存地区防災対策事業			28,764,000円
	③ 環境物件の維持管理 鳴海家住宅・高橋家住宅・西谷家住宅			183,000円
	④ 旧松の湯再生工事(平成26年度繰越事業)			199,012,000円
	⑤ 伝統的建造物群保存地区防災事業(平成26年度繰越事業)			3,236,000円

平成26年度 施策イ	【継続】文化財の保護の充実と活用の推進（文化スポーツ課） 市内に所在する文化財を保護してその活用を図り、文化的な向上に役立てる。			
予算・決算	現計予算額	10,787,000円	決算額	10,787,000円
		前年度比 212.2%増		執行率
事業計画	① 遺物の展示			— 円
	② 国重要文化財管理事業 高橋家住宅			51,000円
	③ 名勝金平成園（澤成園）保存修理事業			10,736,000円
事業実績	① 遺物の展示			— 円
	長坂(1)遺跡、豊岡(2)遺跡外の出土遺物を産業会館第2展示室で常設展示			
	② 国重要文化財管理事業			51,000円
	重要文化財高橋家住宅主屋の雪囲い及び雪降しに対する助成			
	③ 名勝金平成園保存修理事業			10,736,000円
	名勝金平成園（澤成園）の庭園保存修理工事、便益施設設置工事、正門改修設置工事、板塀改修設置工事に対する助成			
点検・評価	B	遺物の展示内容の入れ替えや展示方法の見直しについては、保存してある遺物の整理確認に着手し、準備を整えているところである。		
今後の課題等	今後は、環境物件の維持管理に対する補助金の整備を進めていく。			
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ			
予 算	現計予算額	1,256,000円	前年度比	88.4%減
事業計画	① 遺物の展示			— 円
	② 国重要文化財管理事業 高橋家住宅			90,000円
	③ 名勝金平成園（澤成園）維持管理事業			1,166,000円

【外部評価 B】

自然環境の影響を受けて若干の繰り越しはあったものの、旧松の湯再生工事や名勝金平成園をはじめとする伝統建造物の保存及び修理等については、順調に整備が進んでいる状況が事業実績から見て取れる。伝統的建造物の保存・修理・再生に対する地域住民の協力が得られているように感じる。伝統建造物群の景観整備や防災対策等に時間を費やすと推測する

が、今まで以上に市民や各団体が活用するよう意識高揚と支援に努めてほしい。

一方、重点施策に明示しているとおり「郷土に対する愛着と誇り、潤いのある市民生活」に寄与するためには、修復・修繕等のハード面の整備がなされた後の活用に対する取り組みが重要だと考える。今後の課題等に明記している中町地区とのコミュニケーション活動の機会や住民意識の向上が文化財活用のポイントになると思われる。松の湯がすでにオープンしていることを考えると、平成27年度の施策の中に「活用」に関する記述があつてしかるべきと考えるが、平成28年度の施策に期待する。

(2) 地域の歴史・文化の継承 (H26・H27変更なし)

地域の歴史・文化を正しく理解し、継承していく人材の育成をめざす。

平成26年度 施策ア	【継続】古文書解読講座の支援（文化スポーツ課） 古文書の解読や昔の事象を学び、地域の歴史・文化の理解を深める。			
予算・決算	現計予算額	22,000円	決算額	18,538円
		前年度比 同額		執行率 84.3%
事業計画	歴史文化専門員を講師として派遣 月1回			
事業実績	古文書解読講座 H26.4-H27.3 計12回 勤労青少年ホーム会議室 約20人受講 お茶に親しむ／文化的事項の講話(秋田雨雀について)／藩庁日記(御国日記)／歴史と文化・古文書解読-映像実写による研修／鶴湯日識			
点検・評価	A	古文書解読の事前協議や会務の担当打合せに積極的に参加し、関連文書の解読を深めることで、地域の歴史・文化を正しく理解することに繋がっている。古文書解読のほか、文化活動として茶道体験も取り入れ、文化理解も深めた。 また、古文書解読の力がついた会員は、会員講師として講師を務めることで、地域の歴史・文化を継承していく人材の育成に繋がっている。		
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予算	現計予算額	23,000円	前年度比	4.5%増
		事業計画 平成26年度事業計画に同じ		

【外部評価 A】

古文書を読める人材を育成するすばらしい事業であり、古文書解読のみならず茶道体験や講話等、少ない予算ではあるが、楽しみながら地域の歴史の理解や文化に親しんでいる様子が見え、会員の努力と熱意を感じる。

今後もいろいろ工夫を凝らしながら学習し、受講者の技量を高め、一般市民も地域の歴史

や文化に親しめるような機会をつくってほしい。その成果を他の人々にも伝え、古文書を楽しみお新会員の増加につなげていただきたい。

(3) 芸術文化活動の推進（H26・H27変更なし）

個性豊かな地域文化を創造し発信するため、芸術文化活動の推進を図る。

平成26年度 施策ア	【継続】黒石少年少女合唱団の育成（文化スポーツ課） 小・中学生の個性豊かな音楽活動の推進を図るため、黒石少年少女合唱団を育成する。			
予算・決算	現計予算額	500,000円	決算額	416,019円
		前年度比 1.0%増		執行率 83.2%
事業計画	① 入退団式 ② 定期演奏会の実施 通常練習 週1回 特別練習 年4回			
事業実績	① 入退団式 H26. 4. 27 スポカルイン黒石大会議室 入団者5人・退団者2人 団員総数10人 ② 定期演奏会 H26. 11. 24 スポカルイン黒石大会議室 団員のソロパートを設け、一人ひとりの歌声と合唱を披露 通常練習37回・演奏会前特別練習4回・夏休み特別練習1回／OB・OG出演3人			
点検・評価	A	対象となる全児童への団員募集のチラシ配布のほか、父母会・団員・育成指導員の協力による団員募集活動に努めた結果、入団者の増加に繋がった。また、定期演奏会では、練習の成果を効果的に発表できたことで、団員の自信と団結力強化に繋がった。		
今後の課題等	少子化や児童生徒を取り巻く生活様式、価値観等の多様化により団員確保が困難な状況は変わらず、引き続き団員確保に努める必要がある。			
平成27年度 施策ア	【継続】平成26年度施策アに同じ			
予算	現計予算額	520,000円	前年度比	4.0%増
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

平成26年度 施策イ	【継続】文化賞の表彰（文化スポーツ課） 芸術文化活動に優れた能力を発揮し、顕著な成績を残した個人及び団体を表彰することにより、市民の芸術文化活動に対する意欲の高揚を図る。			
予算・決算	現計予算額	394,000円	決算額	268,479円
		前年度比 9.4%減		執行率 68.1%
事業計画	黒石市文化賞等授与式 2月			
事業実績	黒石市文化賞等授与式 H27. 2. 22 グリーンパレス松安閣 文化奨励賞 30人・1団体			

	書道13人／絵画3人／語学3人／ポスター3人／舞踊3人／研究発表2人／川柳・マーチング・ロボット工作競技3人／漫画1団体			
点検・評価	A	各分野における功績を称え表彰することにより、市民の芸術文化活動に対する意欲の向上が図られた。 今年度は新たな分野の受賞や団体での受賞もあり、個人だけでなく団体での活動においても芸術文化活動の活気づけになった。		
平成27年度 施策イ	【継続】平成26年度施策イに同じ			
予 算	現計予算額	489,000円	前年度比	24.1%増
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

平成26年度 施策ウ	【継続】市民文化祭の支援（文化スポーツ課） 黒石市民文化祭に参加する各芸術文化団体を援助し、市民文化祭の活性化を図る。			
予算・決算	現計予算額	824,000円	決 算 額	824,000円
		前年度比 4.8%減		執行率 100.0%
事業計画	黒石市民文化祭開催に係る経費の一部を補助金として交付			
事業実績	<p>黒石市文化協会(33団体加盟)に対する補助金の交付</p> <p>黒石市民文化祭の会場借上料及び照明・音響業務委託料に係る経費を補助</p> <p>生け花展 H26. 10. 17-19 産業会館</p> <p>展示発表 H26. 10. 24-26 中央スポーツ館</p> <p>市民茶会 H26. 10. 25-26 勤労青少年ホーム・産業会館</p> <p>菊花展 H26. 11. 1-3 産業会館</p> <p>舞台発表 H26. 11. 1-2 スポカルイン黒石</p> <p>音楽発表 H26. 11. 3 スポカルイン黒石</p>			
点検・評価	A	補助金の交付により舞台発表の更なる充実と安全性の向上が図られた。 音響・照明を専門業者に委託することで、舞台演出も向上していると出演者や来場者から好評を得た。 また、展示の規模等に見合うよう利用会場を見直した。		
平成27年度 施策ウ	【継続】平成26年度施策ウに同じ			
予 算	現計予算額	966,000円	前年度比	17.2%増
事業計画	黒石市民文化祭開催に係る経費の一部を補助金として交付			

【外部評価 A】

少年少女合唱団については、人材を育成し、その人材を活用し底辺拡大を図るという姿勢が感じられる。団員不足を自覚した団員や周囲の支援者が入団者の確保に取り組み、団員増や発表会の実施に成果をもたらしたことを評価したい。今後も市民の目に触れる機会を多く

設けながら団員の増加や団体存続に向けて継続を図っていただきたい。

文化賞の表彰、市民文化祭の支援は、形は違えど日頃の活動が認められる顕彰の場であり、多くの人々の目にふれる発表の場でもある。表彰に際しては規則に則り適正に行われていると思うし、市民文化祭については、展示・発表等限られた空間の中で工夫しながら事業を実施していると思われる。

今後も、市民の文化活動への意欲を与えるために、要望や実情を把握し適正に事業を進めていただきたい。

#### (4) 活動環境の整備 (H26・H27変更なし)

平成20年4月から休館している黒石市民文化会館（黒石公民館を含む。）の再開について検討していく。

#### 【外部評価 B】

市民文化会館が休館してから7年経過し、いまだに再開のめどが立っていないことは残念である。学習や発表の場として再会を望む市民や文化団体は多く、黒石公民館の一部開館の要望もあったが施設維持管理費用の問題から休館継続となっている。

再開には市の財政状況好転が不可欠な要件であるが、市民の意見を踏まえ、市長部局と連携して進めてほしい。

### 4 心身の健康を保ち、活力と感動を生み出すスポーツ活動の推進

#### (1) スポーツ活動の推進 (H26)

市民一人一人が、生活の中に積極的にスポーツを取り入れ、生涯にわたりスポーツに親しむことのできる地域社会の実現をめざす。

#### 一市民一スポーツの推進 (H27)

市民一人一人が、生活の中に積極的にスポーツを取り入れ、生涯にわたりスポーツに親しむことのできる「一市民一スポーツ」の実現をめざす。

平成26年度 施策ア	【継続】スポーツ競技への参加促進（文化スポーツ課） 競技スポーツ大会への参加を促進するとともにスポーツ教室を開催し、スポーツ活動の場を提供することで、スポーツ人口の底辺拡大と普及を図る。			
予算・決算	現計予算額	2,027,400円	決算額	1,822,560円
		前年度比 61.3%増		執行率 89.9%
事業計画	① 第22回青森県民駅伝競走大会への参加支援	9月		235,000円

	② 第69回市町村対抗青森県民体育大会への選手派遣 8月	1,583,600円
	③ スポーツ教室(バスケットボール) 2月	154,800円
事業実績	① 第22回青森県民駅伝競走大会 H26.9.7 総合8位・市の部5位 黒石市実行委員会への補助金交付	222,000円
	② 第69回市町村対抗青森県民体育大会 H26.8.16-17 黒石市体育協会に委託 18種目 役員選手団256人参加 市の部8位	1,494,000円
	③ スポーツ教室(テニス) H27.2-H27.3 計4回 延114人参加	106,560円
点検・評価	B スポーツ教室は、種目を変更し実施したところ、児童・生徒を含め多数の参加者がありスポーツの普及・振興に繋がった。ニーズに合わせ今後も継続したい。 県民駅伝競走大会は、ここ数年同成績を残し健闘しているが、選手の獲得に苦慮している。 県民体育大会は、全体的に成績が低迷しているところである。	
今後の課題等	課題となっている若手選手育成に関しては、時間を要するが、スポーツ教室等で、児童・生徒に対する競技スポーツの指導をすることで育成していきたい。	
平成27年度施策ア	【改善】競技スポーツ力の向上（文化スポーツ課） 競技スポーツ大会への参加支援や技術指導を行うことで、競技スポーツ力の向上を図る。	
予算	現計予算額	2,516,000円
	前年度比	24.1%増
事業計画	① 第23回青森県民駅伝競走大会への参加支援 9月	237,000円
	② 第70回市町村対抗青森県民体育大会への参加支援 8月	1,608,000円
	③ ソフトテニス教室 2月	182,000円
	④ 黒石市文化・スポーツ大会出場助成事業	300,000円

平成26年度施策イ	【継続】学校体育施設の開放（文化スポーツ課） 公設の体育施設のほか、市民が気軽に利用できる学校の体育施設を開放することで、スポーツ活動の振興を図る。		
予算・決算	現計予算額	550,000円	決算額
	前年度比	同額	
			315,460円
事業計画	小・中学校11校の実施 利用者登録 51団体		
事業実績	学校施設開放の実施 利用団体数：43団体 利用者：延34,919人 利用回数：延2,010回 利用時間：延4,202時間		
点検・評価	B	利用者は、昨年度の実績より若干落ちているが、学校施設を開放することによりスポーツの普及に繋がったと考える。ただ、一部の団体が利用時間を守っていないことから、時間厳守の周知と指導の徹底を図る。	

今後の課題等	AED設置の要望があるが、新規の設置は困難であることから、各小・中学校の学校施設開放委員等の協力を得て、開放時にAEDの移動ができないか協議していきたい。		
平成27年度施策ウ	【継続】平成26年度施策イに同じ		
予算	現計予算額	550,000円	前年度比 同額
事業計画	平成26年度事業計画に同じ		

平成26年度施策ウ	【継続】軽スポーツの普及（文化スポーツ課） 軽スポーツ指導者の派遣やレクリエーションスポーツ祭の開催を通して、軽スポーツを広く市民に周知する。		
予算・決算	現計予算額	783,500円	決算額 511,765円
	前年度比	11.6%増	執行率 65.3%
事業計画	① スポーツ推進委員の研修会の参加促進 ② 第3回黒石市レクリエーションスポーツ祭 9月 レクリエーションスポーツのルールや用具を市民に紹介し実体験させる。 ③ 随時 軽スポーツ用具の貸出し		
事業実績	① 東北地区スポーツ推進委員研修会 H26.7.11-12 92,240円 ② 第3回黒石市レクリエーションスポーツ祭 9月 150人参加 19,525円 ③ 随時 軽スポーツ用具の貸出し 利用団体：各地区協議会等19団体・その他9団体 貸出用具：室内カーリング・フリスビー・キンボール・グラウンドゴルフ・ペタンク等		
点検・評価	B	スポーツ推進委員が各研修会に参加し、自己啓発や知識向上を図ったことにより、軽スポーツ指導の技術向上に繋がった。 市レクリエーションスポーツ祭は、レクリエーションスポーツの普及には繋がったと考える。	
今後の課題等	日中の指導者派遣依頼があった際、仕事の都合により推進委員の対応が困難な状況であることから、各地区協議会体育部会等に呼びかけ、育成していきたい。 市レクリエーションスポーツ祭は、1日のみの開催では参加できない市民もいることから、今後は内容を変え、開催回数を増やしたい。		
平成27年度施策イ	【改善】レクリエーションスポーツの普及（文化スポーツ課） 指導者の派遣や教室などを開催して、レクリエーションスポーツの普及を図る。		
予算	現計予算額	356,000円	前年度比 54.6%減
事業計画	① スポーツ推進委員の研修 (旅費)72,000円 ② 黒石市民ソフトバレーボール大会 70,000円		



③ 文化財めぐりウォーキング事業 2・3回程度	33,000円
④ ラケットテニス教室 2月	181,000円
⑤ レクリエーションスポーツの指導者の派遣及び用具の貸出し	随時

平成26年度 施策エ	【継続】スポーツ賞等の表彰（文化スポーツ課） 年間を通してスポーツ活動に顕著な業績を残した者を表彰することで、市民のスポーツ活動に対する意識の高揚を図る。			
予算・決算	現計予算額	553,000円	決算額	452,350円
		前年度比 3.2%増		執行率 81.8%
事業計画	スポーツ賞等授与式 2月			
事業実績	スポーツ賞等授与式 H27.2.22 グリーンパレス松安閣 スポーツ功労賞1人・スポーツ賞57人・スポーツ奨励賞61人			
点検・評価	A	各スポーツ競技における功績を称え表彰することにより、受賞者の励みとなるほか、市民のスポーツに対する意識の高揚を図ることができた。		
平成27年度 施策エ	【継続】平成26年度施策エに同じ			
予 算	現計予算額	650,000円	前年度比	17.5%増
事業計画	平成26年度事業計画に同じ			

#### 【外部評価 B】

市民がスポーツを行う身近な施設として学校体育施設開放は効果的と思う。また、指導者の育成についても重要で、子ども達が学校やクラブを通して競技スポーツへと導かれ、スポーツ教室等でその力を伸ばしていけるような環境整備が競技スポーツ人口の拡大に繋がる可能性がある。

利用者の安全確保を図るとともに、市民に利用規則遵守を指導しながら継続していただきたい。また、選手育成、指導者育成、スポーツを行う会場の整備等の先を見越した計画が必要であり、行政、スポーツ団体、体育協会等関係機関の協議のもとに将来的な構想をたてていただきたい。

各スポーツ団体のニーズに応じて、施設開放を行っていきありがたいが、利用マナーは必ずしもよいとはいえないと聞くので定期的な連絡会議は欠かせない。これからもアスリートの育成と健康スポーツの両立を図るように事業を展開してほしい。

スポーツ賞はスポーツに携わる人々の功績を顕彰する場であり、市民の励みになることから受賞者の選定には留意し事業を進めていただきたい。

レクリエーションスポーツ祭に多くの市民が参加できるよう内容を変更したことは、前向きな取り組みとして評価できると思う。また、軽スポーツの普及という施策の目的を考えれば、必ずしも推進委員や職員などによらず、地区協議会等の協力を仰ぎながら事業を進めることは、むしろ効果があると考えられる。内容変更するスポーツ祭の具体的な方法を示していただきたい。

スポーツ活動の場の提供とスポーツ人口の底辺拡大という施策内容からすると、各種大会の成績の善し悪しが必ずしも点検・評価の指標となることはないと思う。むしろ、スポーツ教室の種目変更による参加者の増は評価に値する結果と思う。ただ、平成27年度において施策を変更したことで、次回の点検・評価時には競技スポーツカをどのような指標で図るのかを示す必要が生じる。

(2) スポーツ施設の管理運営等 (H27=H26-2-(6)から分離)

スポーツ施設としての機能を発揮できるよう、管理体制の適切な運営を図る。

平成27年度 施策	【社会教育施設から分離】(文化スポーツ課) スポーツ施設としての機能を発揮できるよう管理体制の適切な運営を図る。			
予 算	現計予算額	63,476,000円	前年度比	2.1%増(同条件)
事業計画	スポーツ施設の管理運営に指定管理者制度を採用する。			
	① 管理運営			
	スポカルイン黒石	60,921,000円		
	中央スポーツ館	1,000,000円		
	武道場	925,000円		
② 施設整備				
	スポカルイン黒石ピット内配管工事	630,000円		

【外部評価 A】

社会教育施設から分離となるが、新たな視点での取り組みが見られるのであれば嬉しいことである。いずれの施設も、練習や大会、スポーツ教室等の事業が行われ、多くの市民によって利用されている。施設設備の安全性を確認しながら管理運営し、市民がスポーツ活動を楽しめるよう支援や指導に取り組んでいただきたい。

指定管理の内容について一定の指針をもとに適正な評価をすることによって、「管理体制の適切な運営を図る」という施策の目的が達成されると考える。

## 第4章 事務点検評価委員による意見（総括）

黒石市教育委員会事務点検評価委員長 工 藤 能 継

子どもたちは、学校教育、スポーツや文化活動、子ども会や体験活動など教育委員会による教育行政に支えられている。さらに大人も、家庭教育、地域活動、読書やスポーツ、歴史や文化の継承など絶えず教育行政の世話になっている。教育委員会の各事業が常に市民生活と一体となったものでありたい。

### 1 学校教育の推進について

- ① 県の学習状況調査で中学生の結果が下降しているのは、小学生の段階からスキルの学習が多く、自ら学び取り学習の喜びを味わわせる指導が不足してことが一因と思われる。問題解決学習を基本にすえた「わかる・できる・もっとやりたい」という意欲が沸くような授業に小中連携して取り組むよう進めてほしい。
- ② 近年、発達障害等により学習に集中できずに立ち歩いたり、友達ともめてすぐにけんかをしたりするなど特別に支援が必要な児童・生徒が増加している。一斉指導では学習が成立せず、いつも気かけ特別に配慮した個別指導を行う必要がある。UPる先生や特別支援教育支援員の配置はこのような個別指導にも対応するものである。今後の配置拡大に期待したい。

### 2 社会教育の推進について

子育てに自信が持てない親が半数、子育てに何らかの悩みを持つ親は7割以上いると言われる現代社会において、家庭教育の向上、地域の教育力の向上は重要な課題である。今後も、市民のつながりを大切にし、ニーズに応えるべく事業の推進に尽力していただきたい。

### 3 歴史文化活動の推進について

松の湯交流館は市民に親しまれ、こみせ祭りでは発表・交流の場として活用の輪が広がっている。こみせ、松の湯交流館、金平成園を生かした観光、コミュニケーションの街づくりに一層努めてほしい。

### 4 スポーツ活動の推進について

スポーツ施設（中央スポーツ館、スポカルイン黒石）は利用者のために配慮がよくなされ、気持ちよく利用でき、管理体制がよく機能していると感じる。アスリートの育成とともに市民の健康長寿のために一層スポーツの底辺拡大を図ってほしい。

教育委員会各課の職員の人数は決して多くはないと思うが、各事業において、PDCAのサイクルを大切に、改善したり、創意工夫したりしながら人材育成に取り組んでいると感じる。

今後は、学校の統廃合と廃校の活用、安心安全な教育環境づくり、知徳体の調和のとれた学習意欲旺盛な人づくり、健康で活力のある人づくり、郷土に誇りと愛着を持つ心豊かな人づくりなど課題も多いと思うが、一步一步確実に進めてほしい。

教育委員会の事務点検・評価も2年目であるが、数多くの協議や検討を重ねて実施してきた教育委員会各課の事業報告書に向かう時に、外部評価する側で課題を正確に捉えているのか、事業を見る上での整合性があるのか、次年度の事業計画に多少なりとも有益な意見を出しているのか等の不安や雑念が生じるが、報告書から感じたままに評価を行った。

全般的にみて良好に事業が進められたと思うし、担当課の点検評価を見ると昨年度よりA評価が多く積極性が感じられた。また、依然として進展しない事業、現状の打開が難しいと思われる事業も見られたが、平成27年度施策では事業の統合している分野もあり、事業担当課でいろいろ検討を重ねている事を感じる。

施策ごとにコメントをしているのでここで細かくは述べないが、全体を通して感じることは事業を通して将来の姿が見えてこないことである。前年度の事業の評価であるため当然かもしれないしそこまでの要求は酷であろうが、自分達の取り組む事業が何を目指しているのかがはっきりすれば事業計画も段階的に進められるのではないかと思うからである。

教育委員会では学校適正配置・学校統合が喫緊の大きな事業であるが学校教育のみならず社会教育や一般行政分野にも大きな影響を及ぼすものとする。

学校教育関係分野ではその後の教育環境、児童生徒が受ける授業環境をどのように構成するのかを具体的に考えるべきではないか。将来、児童生徒がわかる・出来る授業の実現を目指すならば、学校統合後の体制を踏まえて教員の資質向上を図る事業のみならず、例えば教員の補助をするスタッフを今以上に配置する等、授業を活性化できる具体的な施策を併せ持つておくことも必要と考える。

社会教育分野においては地域のあり方に深く影響することでもある。市制施行以来数十年を経たが、地区ごとに特徴があり、それが学校にも影響を及ぼし学校の雰囲気や特徴になっていたように感じる。学校統合後の市の未来の姿を描き出すことによってそれぞれの対応すべきことが明らかになり、地域住民の納得も得られるように思うのだが、遅きに失した思いだろうか。人口減、子どもの減少、老人世帯の増加等々いろいろな状況にあっても、地域には活気があり、子ども達には元気で笑顔でいて欲しいと思う。

文化スポーツ課の分野では昨年度もふれたが、文化財としての施設をどのように市民に定着させ親しまれるようにするかであろう。旧松の湯が一般の方々に開放され、金平成園も期間限定ではあるが季節ごとの公開がされているが、他の市町村にも類似のものが見られる。黒石市の施設はどのような点が異なるかの認識と、どのように他と異なるものにしていくのが課題と思われる。関係者との合議は難航する場合も多いと思うが、全ての人に居心地の良い施設、利用する人に優しい施設を目指していただきたい。

価値観の多様化や生活様式の変化に伴って教育に対するニーズが複雑化する一方、益々グローバル化が進む社会において、幅広い分野で指導力を発揮する人材の育成が求められています。また、小・中学校の統廃合問題が佳境に入る本市において、地域コミュニティの再構築と充実が市政方針の中で最も重要な施策と位置づけられています。

平成26年度における重点施策の4つの柱は「夢・志・感性・創造力」等の文言が加わり、住民の潜在能力を活かしながら進める「人づくり」という方針が鮮明になりました。これら施策の見直し等も含め、全体的に事業については自己評価に基づく課題等を踏まえながら改善が図られているという印象を受けました。

評価作業をとおして、本市の教育行政における一つひとつの施策や事業における将来に及ぼす影響の大きさを痛感するとともに、そこに身を置く職員の責務の重さをあらためて感じました。それ故に、各施策の課題が教育委員会の中で十分に咀嚼され、確固たる根拠をもって行政機関と共通認識が図られているかという視点でコメントさせていただきます。

- 平成25年度の自己評価と比較して、今後の課題が明確に示されている項目が増えたことは良いことだと思います。平成26年度の施策に反映させることは難しくとも、平成27年度の施策や事業に改善に向けた取り組みが明示されていない施策が多いことが残念です。
- 現場が必要とするニーズが充足されていない状況にあっても、予算の範囲内で措置したことにより好結果と評価している施策もあります。効果が認められる施策にあっては、更なる充実を図る姿勢と予算増額を求めるためのアピールに努める必要性を感じます。
- 市民や職員はもとより行政関係各部にも方針を明確に示すために、各施策における目的には「何をめざして行う」事業なのかをより具体的に明示する必要があると思います。
- 限られた予算の中で効果を最大限に発揮するためには何をスクラップし、何をビルドするのかという選択が迫られると思います。各課の意向を聞きながら教育委員会としての方向性を明確にし、根拠と勇気を持って事業の改廃に臨む市教委内の体制構築が必要だと感じます。
- 各施策や事業の実績については自己評価への明示や公表することによって、多くの市民や関係機関の目に触れる機会を設けることも必要だと思います。特に、効果が大きいと評価した事業については拡充を目指して内外に啓発を促す努力を期待します。
- 教育現場（学校や公民館）における実績や評価が、市教育委員会の評価となっている施策が多く見受けられます。統括・調整を図る機関として市教委が積極的に介入し、現場における評価結果を分析する機会を設けるなど、事業効果の信憑性をさらに高める取り組みを期待します。